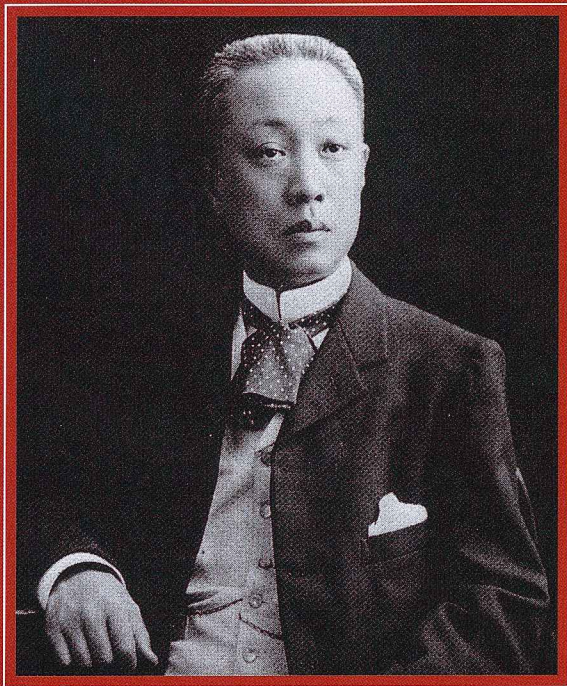


立命館

立命館創始130年・学園創立100周年記念写真集

S i n c e

1 8 6 9



SAIONJI Kinmochi



NAKAGAWA Kojuro

R i t s u m e i k a n

1 0 0 t h A n n i v e r s a r y



地球市民社会への 貢献をめざす立命館

C O N T E N T S	
	ごあいさつ 4
第 I 部 <i>Ritsumeikan up to date</i>	立命館、次代への躍動 7
	Campus Now～立命館の四季～ 18
第 II 部 <i>Spirits of Ritsumeikan</i> ～現在から過去へ～	立命館一世紀の歩み 35
	躍動と世界への時代 2000-1996 36
	飛躍と拡充の時代 1995-1991 46
	調和と創造の時代 1990-1984 52
	振興と変革の時代 1983-1945 58
	草創の時代 1944-1869 64
資料編	歴代理事長・総長・学長 70
	データ集 74
	沿革図 78

写真は西園寺公望書「立命館」(1869年)



立命館理事長

川本 八郎

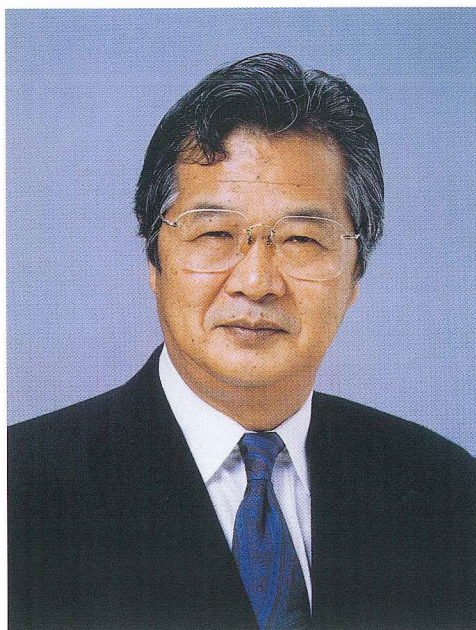
紺碧の空に風薫る今日の佳き日、国内ならびに遠く海外より多数のご来賓のご臨席を賜り、立命館創始130年・学園創立100周年記念式典をここ大分県・別府市において挙行することができますことは、本学園にとりまして誠に光榮であり、喜びに堪えません。また、この記念すべき年に21世紀の未来を展望した事業として、多くの皆様のご支援とご協力により進めてまいりました立命館アジア太平洋大学はこの4月に開学することができました。学園の歴史の大きな節目の年に、新大学の開学を祝う記念式典を同時に挙行することができましたことは、この上ない大きな喜びであります。

近代日本の幕開けとともに、その歴史が始まった本学園は、幾多の苦難を克服しつつ、今日の日本の私立総合学園の中で歴史と伝統を持つ学園の一つとなりました。これも一重に、学祖西園寺公望、創立者中川小十郎ならびに諸先達の努力はもとより、時代を超えて各界各層の皆様の深いご理解と温かいご援助によるものと、ここに衷心より感謝申し上げる次第です。

現在、私達の社会は激しく変動しており、我が国のみならず地球規模において変革の時代を迎えております。21世紀の社会においては、政治・経済・文化のあらゆる面において、従前にも増して国際化・情報化が進展することは間違いありません。来るべき社会が、平和と進歩に満ちたものとするために、私ども中等教育・高等教育機関に対する社会的要請は益々強まることになるでしょう。豊かな国際性に基づく「自由と清新」「平和と民主主義」という本学園の建学の精神と教学理念を、改めて歴史的社会的な観点から深め、その内容を発展させ具現化させなければなりません。

21世紀の始まりは、奇しくも立命館が次なる200周年に向けての第一歩と一致いたします。私どもは、100年の歴史と伝統に感謝し、学園関係者一同、中等教育・高等教育機関としての世界的貢献を果たすべく、大きな展望と強い信念を持って邁進する決意であります。

皆様におかれましては、今後とも本学園に対しまして変わらぬご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



立命館総長

長田 豊臣

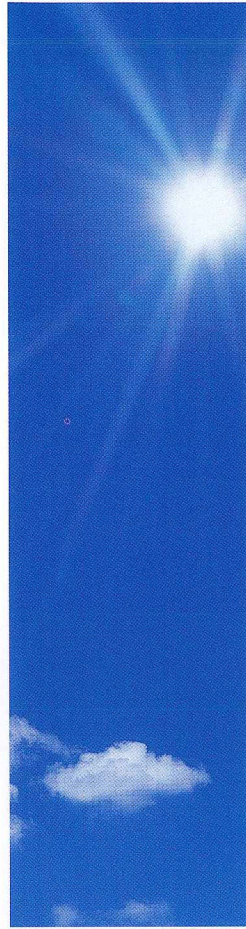
立命館の創始は、近代日本の代表的国際人西園寺公望が、私塾「立命館」を開いた1869(明治2)年にあります。西園寺は、「自由主義」と「国際主義」を標榜し、日本が世界の一員として十全な役割を発揮することをめざして、人類が歴史のなかで形成した普遍的価値をわが国に根づかせることを生涯の課題といたしました。かくて、立命館学園の創立は、西園寺の精神を引き継いだ中川小十郎が、勤労者のための夜学校「京都法政学校(「立命館大学」の前身)を開いた1900年に遡ります。

爾来100年、立命館は、今日見られるような、北海道、滋賀、京都、大分にキャンパスをもち、中学校、高等学校、大学、大学院を擁する、日本でも有数の総合学園として発展してきました。現在立命館に学ぶ学生・生徒数は約36,000名、巣立った校友は約23万人を数えます。今日、立命館は躍進する私学として、国の内外から高い評価と関心を得る学園になりました。

しかしながら、この100年間は決して順風満帆というわけではありません。わが国にとっては、明治、大正、昭和から平成へと続くこれらの時代は、二度におよぶ悲惨な大戦を経験し、社会が疲弊と混乱そして復興を繰り返して今日の近代国家を形成する過程でありました。その中で、立命館が今日にいたるまでには、同時期に創立された他のほとんどの私学がそうであったように、多くの困難を乗り越えなければなりません。この間、わが学園にとって、最も重要なことは「官」によるのではなく、「民」に依存する教育・研究機関として、どういう学問・研究の自由を守り、建学の精神と私学の特色を鮮明にしながその教学の質を高め発展させていくのか、ということにありました。

学園の歴史を振り返って、立命館が私学として、教育研究機関として誇れるものがあるとすれば、それは、「自由と清新」の建学精神と「平和と民主主義」の教学理念にもとづいて、常に学生の利益を優先にしてきたこと、優れた人材を世に送り出すべく社会との結びつきを重視したこと、そして民主的な学園運営のもとに絶えず自己改革を追求してきたことにあるかと思われま。

世界は地球化・ボーダレス化の真っ只中にあります。西園寺の残した精神は、人類共通の平和の理念として輝きを増しており、本学の指針として学園の諸事業の中に生かさなければなりません。立命館は、21世紀の地球市民にふさわしい、豊かな創造性と人間味にあふれ、強いリーダーシップをもち、人類全体が解決すべき諸課題に真剣に取り組むことのできる優れた人材の養成に今後いっそう努力する所存であります。



Ritsumeikan up to date

第 I 部

立命館、次代への躍動

2大学、3高校、2中学校を擁する立命館学園は今、
学びのステージを世界へと広げ始めている。総合学園として、
さらに発展を続け、国際化、情報化を先導する教育・研究はもちろん、
産・官・学連携や生涯教育にも積極的に展開。ネットワーク強化のために
東京と大阪にオフィスを、韓国とインドネシアに海外事務所を開設した。立命館は新世紀に
ふさわしい学園づくりを着実に進め、世界に通用する地球市民を育成する総合学園として躍動を続ける。

開学宣言

人類は有史以来、地球上のさまざまな地域において自らの文化を築き、文明の進化を求めて多様な営みを繰り広げてきた。人類はまた、さまざまな制約と障壁を超えて、自由と平和とヒューマニズムの実現を求め、望ましい社会のあり方を追求してきた。

20世紀は政治・経済・文化のすべての領域においてかつてない進歩と飛躍の時代であり、人間の諸活動は地球的規模で展開されるに至った。また、二度にわたる世界大

戦の経験を通して、国際連合をはじめとする国際協力のための機関が設立され、平和維持と国際理解に向けての取り組みが大きく前進した。

我々は、21世紀の来るべき地球社会を展望する時、アジア太平洋地域の平和的で持続可能な発展と、人間と自然、多様な文化の共生が不可欠であると認識する。この認識に立ち、我々は、いまここにアジア太平洋の未来創造に貢献する有為の人材の養成と新たな学問の創造のために立命館アジア太平洋大学を設立する。



立命館アジア太平洋大学は、「自由・平和・ヒューマニズム」、「国際相互理解」、「アジア太平洋の未来創造」を基本理念として、2000年4月1日、大分県と別府市、さらに国内外の広範な人々の協力を得て、別府市十文字原に誕生した。世界各国・地域から未来を担う若者が集い、ともに学び、生活し、相互の文化や習慣を理解し合い、人類共通の目標を目指す知的創造の場として、立命館アジア太平洋大学の開学をここに宣言する。

2000年4月1日



本部棟と研究棟 Administration and Faculty Offices



教室棟 Classrooms



スチューデントユニオン Student Union



ミレニアムホール Millennium Hall

立命館大学 衣笠キャンパス





学問と文化・芸術のまち、古都・京都の西北に位置し、金閣寺・龍安寺・等持院の名刹に囲まれた衣笠キャンパスには、法学部、産業社会学部、国際関係学部、政策科学部、文学部の5学部、および大学院各研究科を設置。人文科学・社会科学の諸分野をカバーする総合的な教育・研究の拠点となっている。ますます複雑化・多様化する社会の要請に応え、人文総合科学インスティテュート、国際インスティテュートをはじめ、学部の垣根を低くして積極的に社会科学と人文科学の融合を進めるなかで、100年の伝統を生かしながら、教学の高度化を図っている。



存心館



アート・リサーチセンター



以学館

立命館大学 びわこ・くさつキャンパス





琵琶湖の南東、「びわこ文化公園都市」の一角に位置するびわこ・くさつキャンパス(BKC)。経済学部、経営学部、理工学部を擁し、最先端の教育・研究を進める。3学部連携により、新しい学際領域を切り拓く学びのシステム、文理総合インスティテュートを発足させ、産・官・学、地域との連携による研究に積極的に取り組む。61haの広大な敷地を有し、恵まれた自然環境のもと、最新の教育・研究施設を整備し、各界から注目される、次世代型キャンパスとして展開している。



キャンパスプロムナード

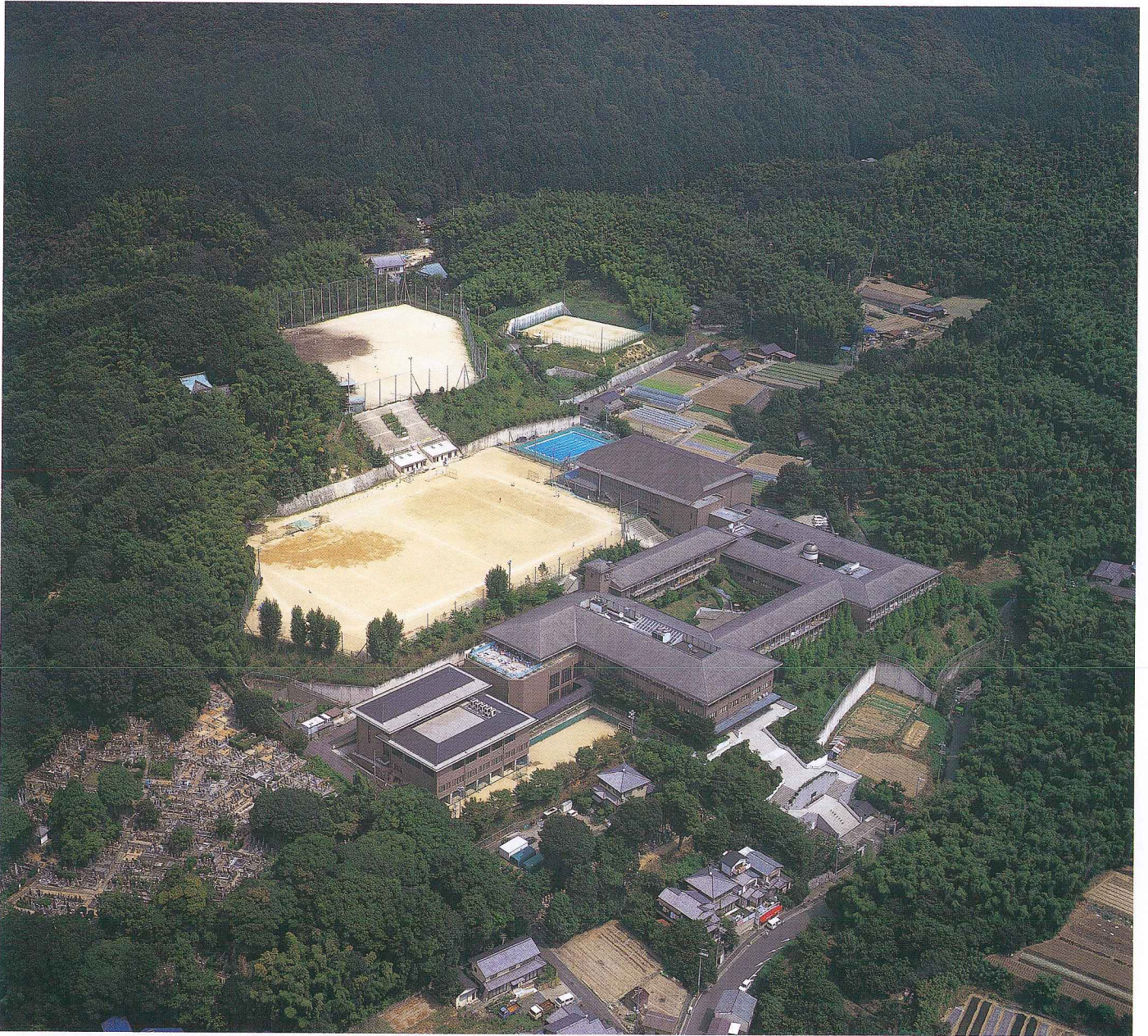


立命館大学ローム記念館



ビューティストリート

立命館中学校・高等学校 深草キャンパス



正門前に掲げられた末川博名誉総長の書のレリーフ

95年の輝かしい歴史と伝統を有し、中・高・大・院一貫教育により、あらゆる分野で活躍する有為な人材を多数輩出してきた。1988年、京都・北大路学舎から現在の深草の地に移転したことを機に男女共学とした。「自己表現力」「英語運用能力」「情報活用能力」の伸長を柱に、生徒の個性を尊重し、生きる力と学ぶ意欲を育てる教育を展開している。

立命館宇治高等学校 宇治キャンパス



宇治学園 創立者 川田平八郎の胸像

宇治学園との法人合併により、1994年に設置。高・大・院
一貫教育、国際化、情報化を教育の3本柱とし、カリキュラ
ムに選択履修科目を多く配置し、多様な能力と興味・関心
に応じた学習ができるよう様々な工夫が施されている。知・
徳・体のバランスのとれた生徒を育てるとともに、立命館
スピリットの涵養を進める。

立命館慶祥中学校・高等学校 北海道キャンパス



正門からキャンパスを望む

慶祥学園との法人合併により、1995年に高校を設置、3番目の附属校が北海道に誕生した。1997年には札幌に隣接する江別市に広大なキャンパスが完成。さらに2000年4月、中学校を開校し、中・高・大・院一貫教育がスタートした。国際化・情報化社会のリーダーの育成、自己学習能力の修得、自己表現能力の涵養、自己啓発能力の養成を教育目標としている。

立命館大学 東京オフィス



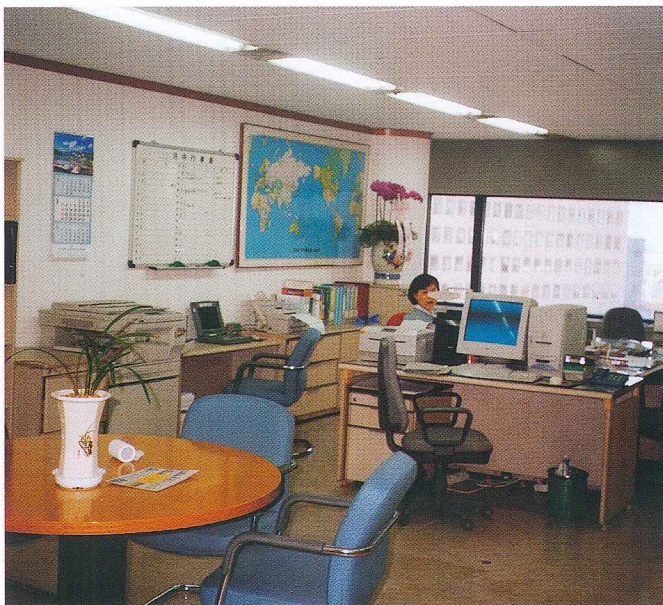
学園のネットワーク強化や学生の進路・就職支援を目的として、1999年、東京駅八重洲口に近いオフィスビル内に設置。社会的ネットワークの強化、大学の総合窓口機能、就職活動支援、校友とのネットワーク機能などを柱とした業務を行っている。

立命館大学 大阪オフィス



1995年に設置し、大阪・淀屋橋にオフィスを構えている。社会的ネットワークの強化・リエゾン活動、大学の総合窓口機能、就職活動支援、OB・OGらによる異業種交流、大阪オフィス講座をはじめとする諸講座など多彩な業務を展開している。

立命館アジア太平洋大学 韓国事務所



立命館アジア太平洋大学の設立に向けて、韓国・ソウルにはじめての海外事務所として開設。協定高校との連携、政府系機関や教育・研究機関等とのネットワーク強化、留学生への情報提供・サポート、卒業生との連携など、多様な機能を担っている。

立命館アジア太平洋大学 インドネシア事務所



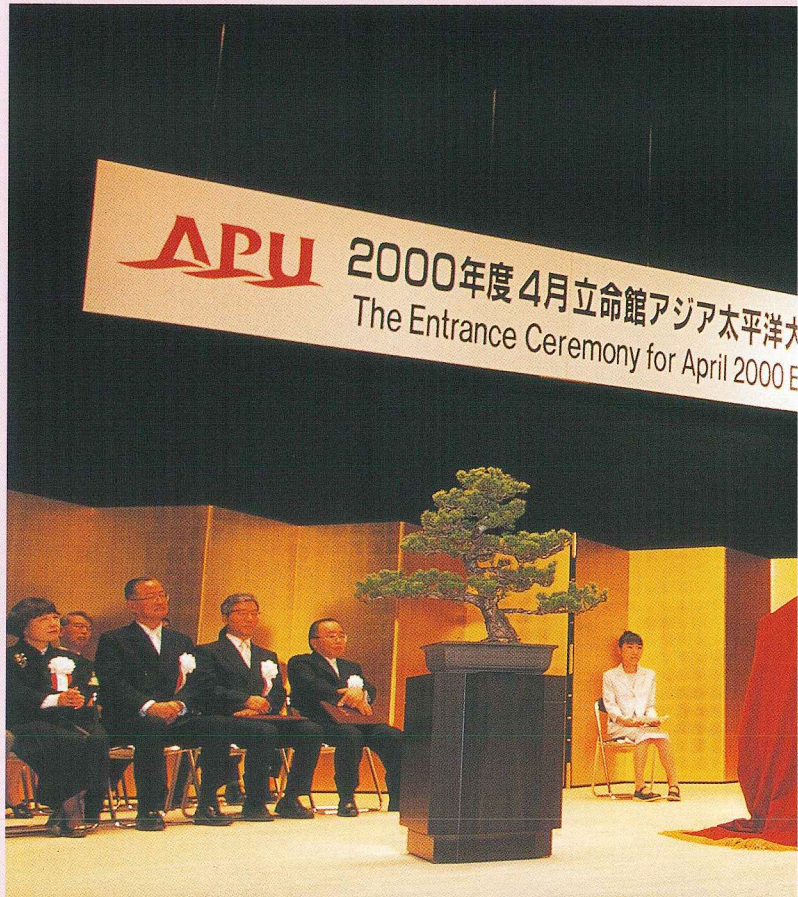
海外の教育・研究機関とのネットワークを形成・拡大するために、韓国事務所に引き続いて1998年、インドネシア・ジャカルタにも海外事務所を開設。現地の留学希望者・高校・教育機関等への情報提供、協力関係の構築などを進めている。



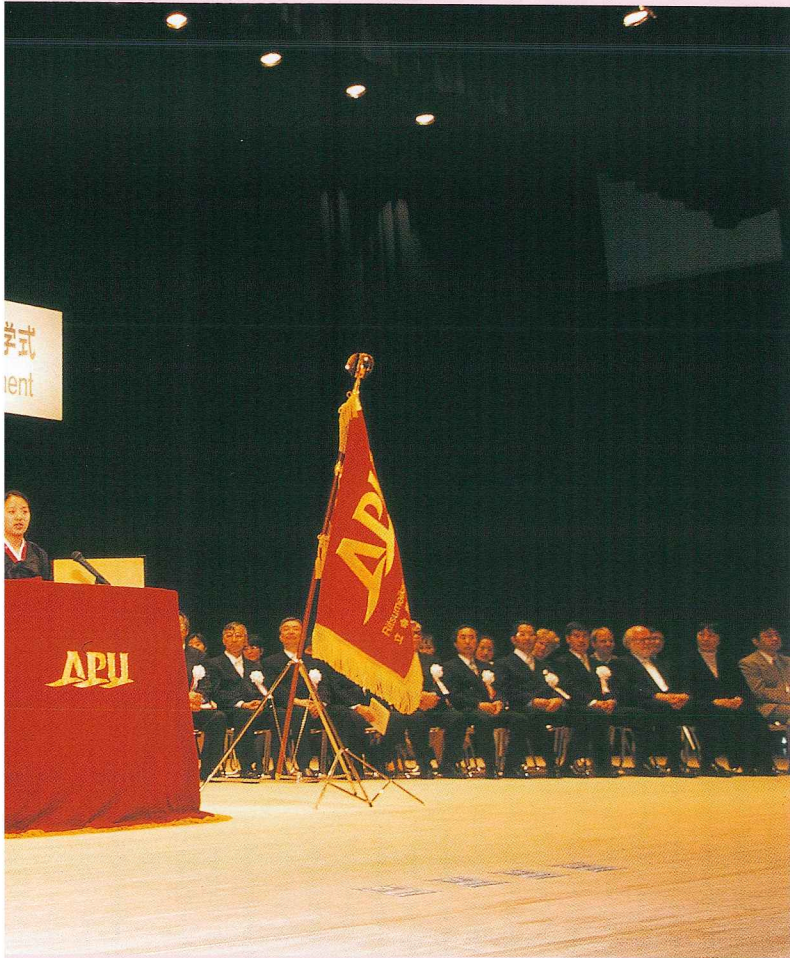
入学式の新入生歓迎イベントでの
モダンジャズバレエ部の演技



新入生を勧誘するクラブ・サークル



2000年度立命館大学入学式



立命館アジア太平洋大学第1回入学式 新入生代表あいさつ



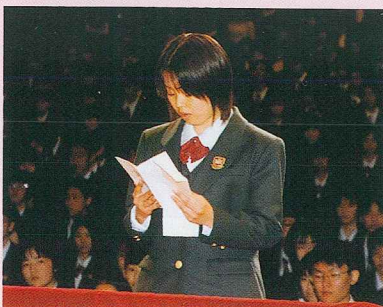
満開の桜で華やぐ衣笠キャンパス



入学式式場に集まる新入生と父母



立命館慶祥高等学校入学式



立命館宇治高等学校入学式



立命館高等学校入学式



キャンパスに新生を迎え歓迎ムードいっぱいの新歓祭典

茶道研究部



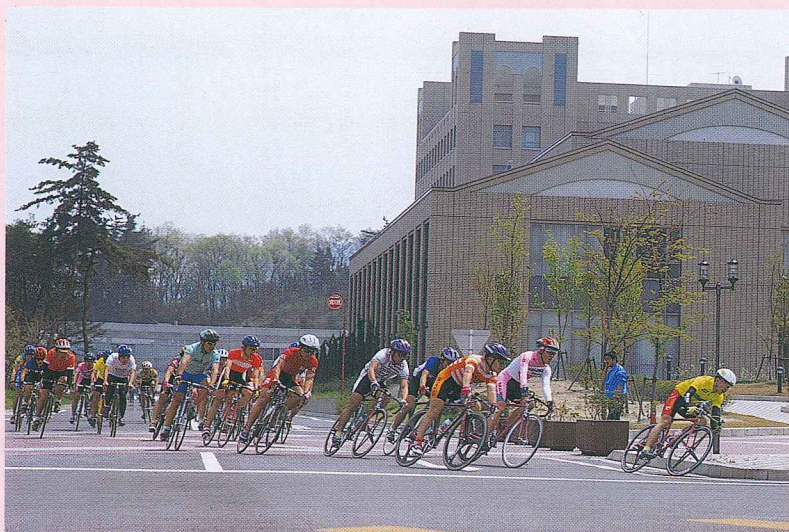
能楽部



落語研究会



地域住民の人気も高い恒例の行事 伝統芸能フェスティバル



びわこ・くさつキャンパスでロードレースを
繰り広げる自転車競技部

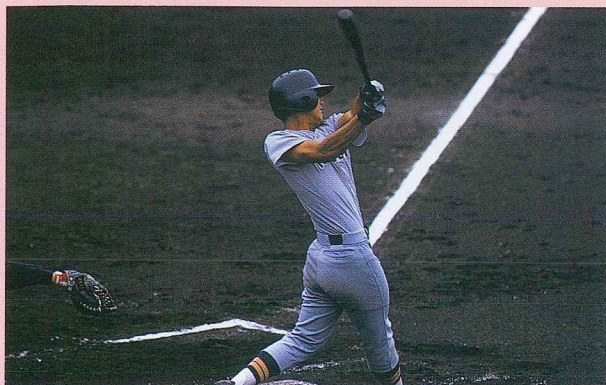


父母教育後援会全国総会

Passion of Ritsumeikan

エールが熱い伝統の立同戦 ＜SPORTS 立同戦＞

硬式野球部の立同戦は、毎年、春は5月、秋は10月に開催される。文字通り、立命館と同志社が対戦する伝統の一戦。新入生にとって、とくに春の立同戦は、盛り上がる一大イベント。選手の熱気あふれるプレーはもちろん、応援も負けてはいない。試合展開に合わせてさまざまな応援が繰り広げられる。スタンドが一体となって立命館名物「バナナダンス」



立同戦'99

を披露したり、みんなで肩を組んで応援歌「グレート立命」の大合唱をしたり…。スタンドからの手に汗握る応援を通じて、立命館大学の学生であることに誇りと自覚



をもつと言っても過言ではない。クラスやクラブの仲間との友情も一気に深まる。観戦に駆けつけるのは、学生や卒業生だけではない。多くの京都市民が西京極球場に足を運ぶ、今や京都の風物詩となっている。

立同戦の歴史は、1931(昭和6)年の秋にまで遡る。ちょうどその年に旧関西六大学野球連盟が発足し、立命館は秋のリーグ戦で優勝した。以来、現在の関西学生リーグを含めて25回の優勝を果たしている。99年には、近大の五連覇を阻み、みごとに春秋連覇を達成した。OBIにも、大リーグやプロ野球、社会人野球で活躍する名選手を輩出している。そして今年も五輪代表候補を3人も擁し、その戦力の充実ぶりは、他大学を圧倒、今や関西に敵なし。神宮球場で行われる全国大会での優勝・大学日本一を目標に、猛練習に励んでいる。



立命館・UBCジョイントプログラムを行うカナダの
ブリティッシュ・コロンビア大学
プログラム参加の学生たちは毎年夏カナダへ出発し
8月に及ぶ学生生活を送る



UBCでコア科目を受講する学生たち



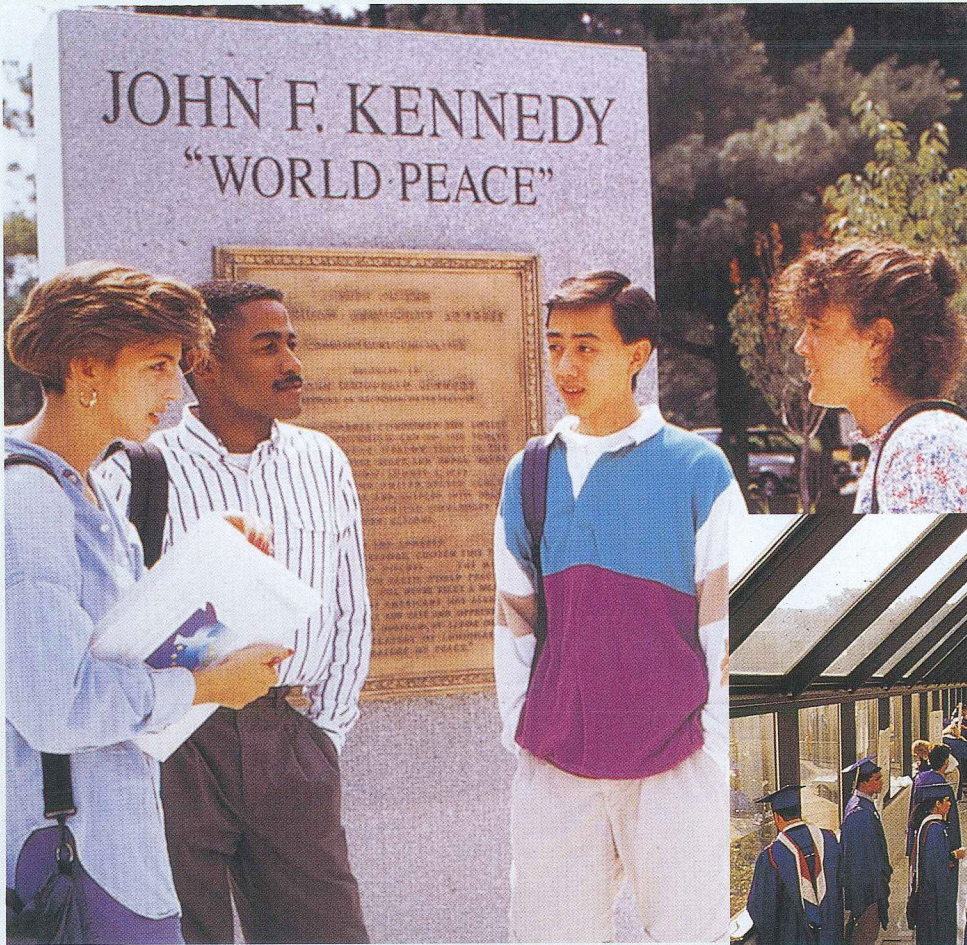
ゆったりとくつろげるBKCの「ラウンジ・コミュール」



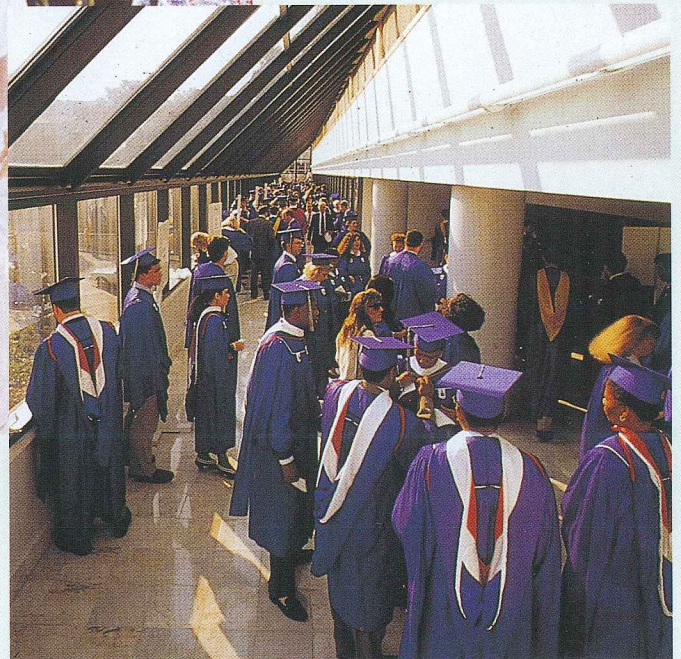
授業に向かう衣笠キャンパスの学生たち



前期セメスターを締めくくる定期試験



立命館大学・アメリカン大学共同学位プログラム
両大学の学位を最短4年で取得する日本では初めての制度



アメリカン大学 学位授与式に向う学生たち



祇園祭での学生アルバイト



びわこ・くさつキャンパスのセントラルサーカス



立命館大学の名物イベント「ナイトハイク」
衣笠キャンパスからびわこ・くさつキャンパスまでの約38kmの道のりを一晩かけて歩く



キャリアアップを支援するエクステンション講座



BKCメディアセンター・メディアライブラリー 豊富な図書・資料とともにマルチメディア対応のワークステーションを整備



全国の大学の中でもトップレベルの実力をもつヨット部



全日本大学選手権での優勝経験をもつカヌー部



2000年シドニーオリンピックに10人中6名の本学学生・OGが出場するシンクロナイズドスイミング

Passion of Ritsumeikan

生きた外国語を学び 国際感覚を体得

〈GLOBALISM 附属校での国際教育〉

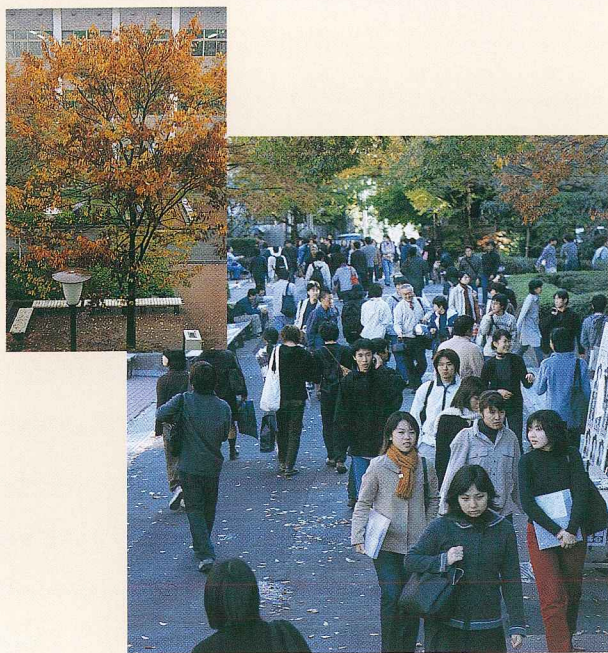
各附属校では、急速に進展する国際化に対応すべくコミュニケーション能力の養成を目標にして学習。全生徒が英語検定やTOEFLを受験し、スピーチコンテストなども開催している。さらにホームステイをしながら学ぶ海外研修旅行も実施。生徒たちが国際社会に身を置く体験を通して、外国の文化、歴史、社会に直接ふれ、生きた外国語を学び、日本と日本人を客観的に見つめる機会となっている。

この他、各附属校が独自のプログラムで海外研修に取り組んでいる。例えば立命館宇治高等学校のイギリスコースでは、ロンドン近郊の公立高校を借りて研修を行う。午前の授業ではコミュニケーションとイギリスの地理・歴史を学び、午後のアクティビティでは英語によるドラマの脚本制作・実演発表、英字新聞制作を行う。他のコースでも、同様の学習に取り組み、生徒たちは外国語活用能力を確実に高めている。

また社会に貢献する活動にも挑戦。ドイツコースでの環境問題学習は、国際環境都市として名高いフライブルク市を訪問。市の中心部に自動車を入れない町の構造、ゴミのリサイクルシステム、環境に優しい住宅など、環境問題に対するドイツの姿勢を肌で体験する。他にベトナムや中国など附属校ごとに様々なコースがあり、それぞれにテーマを設けて学習効果を上げている。



立命館慶祥高等学校の海外研修(中国)



秋深まり紅く染まるキャンパスの木々



全学協議会 学園の長期計画や教学課題・学費などについての白熱した議論を展開



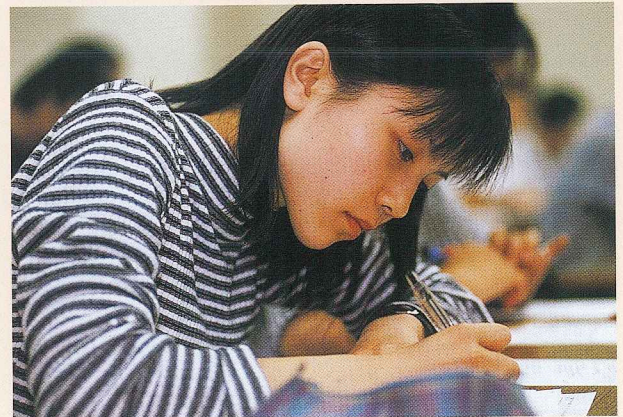
国際平和ミュージアムの秋の特別展「世界報道写真展」



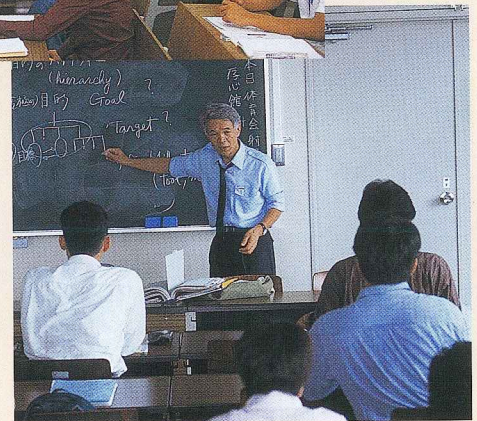
戦没画学生の作品が展示される無言館コーナー



立命館大学国際平和ミュージアム
入館者総数は開館以来26万人を超える



後期セメスターがスタート 勉学にも身が入る秋



講義を真剣に聞き入る学生



国際関係学部の専門外国語(英語)クラス



陪審法廷を使得の実践さながらの模擬裁判



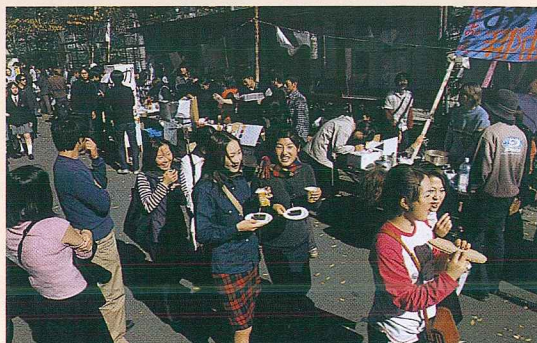
99年は10万人の参加者が集った学園祭



多くの学生や地域の子供たちが集まる学園祭の模擬店



学園祭での和太鼓サークルの熱演



学生と市民でにぎわう学園祭のキャンパス





期待の高まるラグビー部



活躍する立命館高等学校陸上ホッケー部



演奏活動に取り組む軽音楽部



熱戦を繰り広げる女子バスケットボール部

Passion of Ritsumeikan

旺盛な演奏会活動で 地域の文化振興に寄与 ＜ARTS 学芸系サークル＞

立命館大学には、数多くの学芸系サークルがあり、学生たちは充実した学生生活を送っている。ここでは、長年継続して意欲的な活動が続ける音楽系の2つのサークルを紹介する。

【交響楽団】

昨年、創部45周年を迎え、現在の部員数は120名。著名なOBに合唱指揮者の伊吹新一氏を輩出している。定期演奏会は、6月の京都、11月の大阪に加えて、2000年11月からびわこホールでも始める。本年2月25日には、大分市でAPU開学記念特別演奏会を開催。翌日には、子供たちや高齢者向けのファミリーコンサートも開催した。さらにデイスサービスセンターなどで、アンサンブル編成のクリスマスやニューイヤーコンサートなどを開催。地域に密着して文化振興を進めるなど地道な活動にも力を注いでいる。

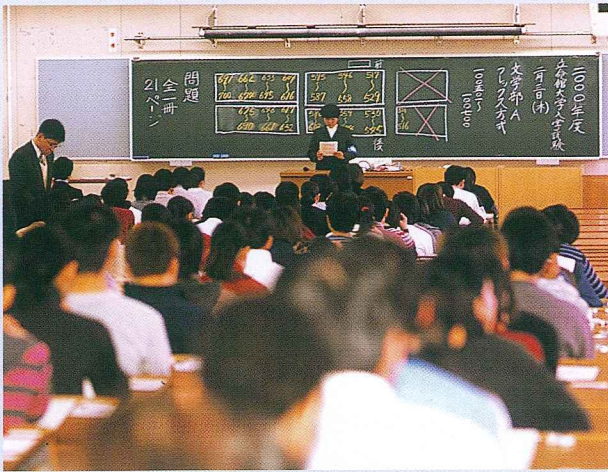


メディックス第36回定期演奏会



【混声合唱団メディックス】

ボイストレーナと1対1でのボイストレーニングなどを実施するとともに、客員指揮者のもとで厳しい練習を重ね、その実力は高く評価されている。学外での定期演奏会は、6月の大阪、12月の京都の年2回。6月の演奏会では、関西学生混声合唱連盟所属の合唱団の合同ステージが繰り広げられる。おもな参加大学は、立命館大学をはじめ関西大学、関西学院大学、同志社大学、大阪大学、神戸大学など。また7月の学内コンサートや入学式・卒業式での校歌斉唱で日頃の鍛練の成果を発揮している。



2000年度大学入学試験志願者は
93,000人を超えた



立命館慶祥高等学校の登校風景



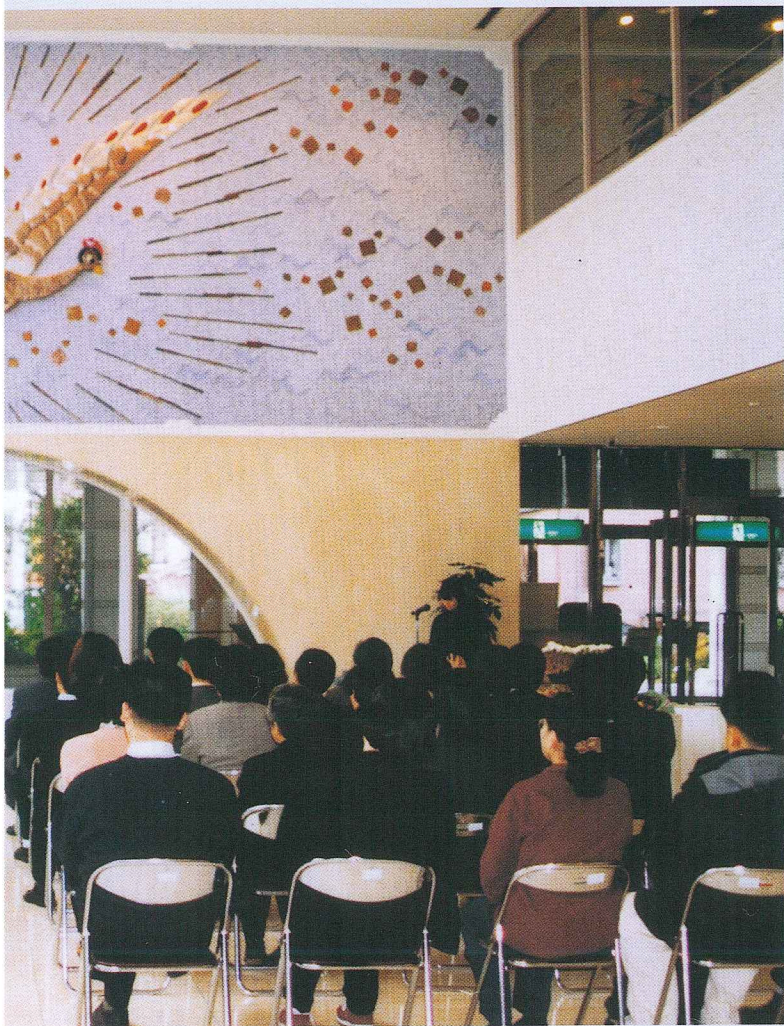
不戦のつどい・わだつみ像前集会
1954年から毎年、太平洋戦争開戦の日である12月8日
全学の関係者が集まり平和の誓いを新たに行っている



衣笠キャンパス諒友館前広場



学生でにぎわう喫茶ゆんげ



きめ細かい進路・就職
支援を行う
キャリアセンター



学生の学びの多様化に応えるインターンシップオフィス



異文化理解セミナーでの中国・南開大学との学生交流会



衣笠キャンパス図書館のオープンパソコンルーム



終盤を迎え熱の入る授業風景



立命館大学卒業式



立命館高等学校卒業式

立命館慶祥高等学校卒業式



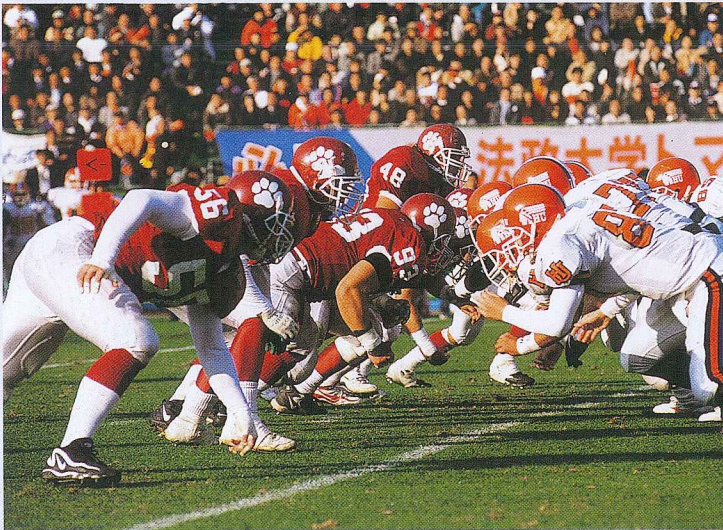
4年間の学業を終え笑顔があふれる立命館大学卒業式



図書館で卒業論文の仕上げに取り組む学生



学術情報システム「RUNNERS」



東西学生王座決定戦甲子園ボウル優勝・学生日本一の栄冠に輝いた
アメリカンフットボール部(1998年度)



関西学生選手権優勝経験をもつサッカー部



Passion of Ritsumeikan

多様な教育システムのもとで 着実に成長を続ける学生

<STUDIES 基礎演習、インターンシップ制度>

1回生の大学への導入期教育において、クラスづくりや自主的な学習スタイルづくりを、上回生が援助するためのオリター制度。この制度の運用によって、1回生が新しい学びの環境にとまどうことなく入れるとともに、学生同士による教え合い、学び合いという土壌を育む効果も生まれている。また1・2回生の基礎演習をはじめとする小集団授業における討論と集団的な学習を通じて、自らの関心を深め、問題を発見し解決の方向を探る力を身につけている。

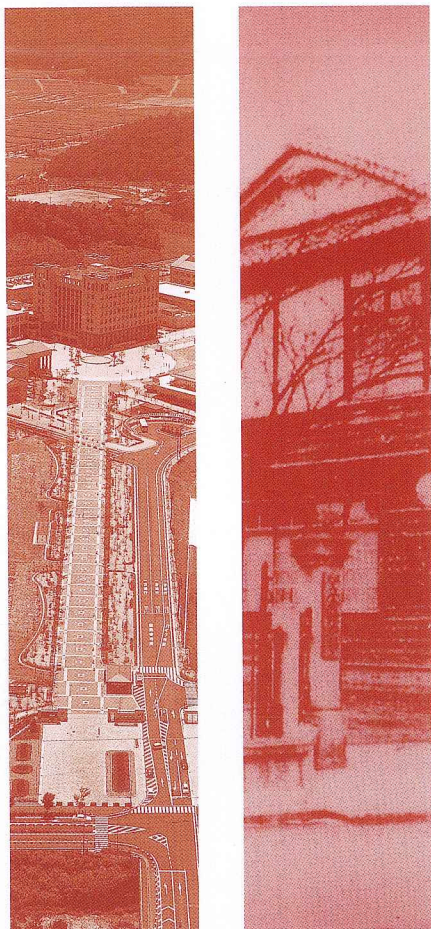
3・4回生では、多くの学生が「インターンシップ」に意欲的な取り組みをみせている。ゼミや授業などで得た知識、技術を実際に社会で活用し、その経験を通じてより深く研究を進めるために、企業や官公庁など社会の現場で学ぶシステムが、インターンシップ制度。本学ではインターンシップ制度を多様な教育プログラムの一つとして位置づけ、1997年から実施している。ソニー(株)、松下電器産業(株)、日本IBM(株)、文部省、近畿通商産業局、EU諸国などの国際分野

ビジネスを体験するEABIP(欧亜企業研修プログラム)等々へ学生が積極的に参加している。

学生がインターンシップ制度を通じて、学部で学んだ専門教育を社会という現場で実践することにより、学問への深まりや自らのキャリア開発につながるという高い教育効果が期待できることから、インターンシップの総合窓口としてキャリアセンター内にインターンシップオフィスを開設している。



基礎演習の授業



Spirits of Ritsumeikan

～ 現在から過去へ～

第Ⅱ部

立命館一世紀の歩み

立命館の歩みは、西園寺公望が1869年に

開いた私塾「立命館」に始まる。学園の創立は、その精神を

引き継いだ中川小十郎が、勤労者のための夜学校「京都法政学校」を開いた

1900年に遡る。近代日本の代表的な政治家で、国際人でもある西園寺は、教育界に「世界の中の

一員としての日本」を呼びかけ、それを引き継いで中川は「自由と清新」を学園の建学の精神に位置づけた。

一世紀を経た今、この建学の精神に新たな現代の光が照らされ、地球市民社会に貢献するための教育・研究が進んでいる。

Ritsumeikan Asia Pacific Uni



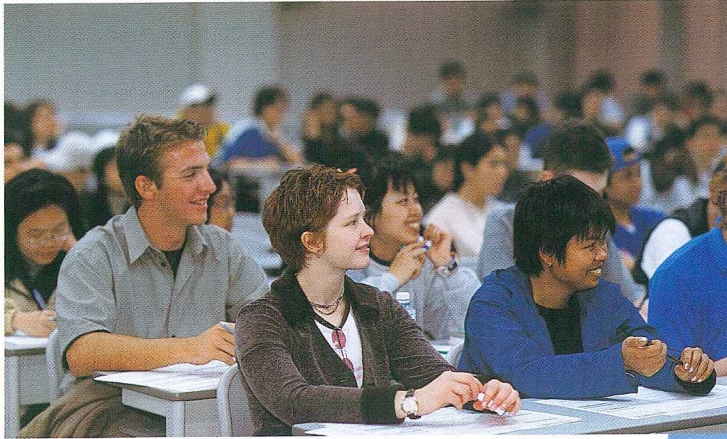
躍動と世界への時代

2000-1996

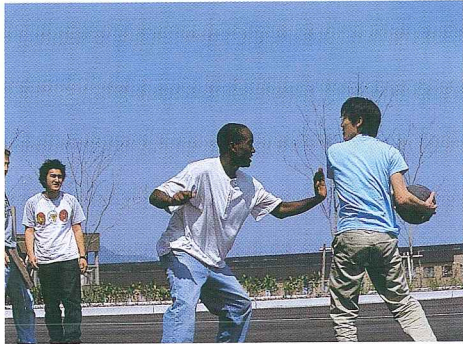
世界は今、まさに新しい世紀へ踏み出そうとしている。立命館は1996年に、21世紀の地球市民社会への貢献をめざす第5次長期計画をスタートさせた。その集大成が、アジア太平洋地域の持続的・平和的発展と共生を担う国際的人材の養成をめざす「立命館アジア太平洋大学」(APU)の開学である。経済・経営両学部のBKCへの新展開と文理総合インスティテュートの設置、京都・衣笠キャンパスでの国際インスティテュートの設置にも取り組んできた。また生涯学習社会への対応や産・官・学連携など、社会に開かれた学園づくりを積極的に展開。中等教育分野では、立命館慶祥中学校・高等学校の開校など中・高・大・院一貫教育は大きな前進を見た。

-
- 2000** 平成12年 立命館アジア太平洋大学開学／立命館慶祥中学校開校／国際インスティテュート設置／数学物理学科を改組して数理科学科・物理科学科を設置／化学科を応用化学科・生物工学科を化学生物工学科に名称変更／教育科学研究所を人間科学研究所に改組／立命館大学ローム記念館竣工
- 1999** 平成11年 立命館アジア太平洋大学キャンパス竣工／アート・リサーチセンター開設／新昼夜開講制の実施／東京オフィス開設
- 1998** 平成10年 経済・経営学部びわこ・くさつキャンパス新展開／文理総合インスティテュート設置／長田豊臣、総長に選出、99年1月就任／衣笠総合研究機構、BKC社系研究機構、国際教育・研究推進機構の設置／大学教育開発・支援センター、国際平和センターを開設／京都地裁の陪審法廷移設・竣工
- 1997** 平成9年 大分県、別府市と立命館アジア太平洋大学設置基本協定を締結／大学院政策科学研究科設置
- 1996** 平成8年 文学部人文総合科学インスティテュート設置、理工学部光工学科・ロボティクス学科設置／立命館大学慶祥高等学校開校／社会人入試および昼夜開講制の実施／SRセンター開設／アジア太平洋研究センターを開設
-





世界中から集まった学生でにぎわう
国際色豊かな立命館アジア太平洋大学の
キャンパス





新装なった以学館(2000年4月)
福祉系実習の設備も新設され産業社会学部の
基本施設として利用されている



立命館大学ローム記念館竣工(2000年4月)
ローム株式会社の全面協力により半導体技術の研究開発を推進する
教育・研究拠点がBKCに開設された

立命館ゆかりの地

大分県別府市から、アジア太平洋 時代の未来を切り拓く ＜立命館アジア太平洋大学(APU)＞

APUが立地する九州は、歴史的にもアジア地域と日本の人、モノ、情報が行き交った玄関口として機能してきた。その地に開学したAPUには、学生、教員ともに約半数がアジアを中心に世界50カ国・地域から集い、世界の言語や文化を肌で感じることができるキャンパスである。だから、共通言語も英語と日本語の2本立て。APUは、まさに国際交流・理解の最前線と言える。

今、アジア太平洋地域は、急速な経済発展の一方で、公害・環境問題や、都市と農村の格差といった社会問題、さらにはエネルギー問題、食糧問題、民族問題などを抱えている。これらをどのように解決、克服していくかが、アジア太平洋地域のみならず、今後の世界全体にとっても非常に大切で、21世紀の国際社会の新たな指標として、その方策が問われている。

APUは、このような状況の中で、アジア太平洋地域が持続的・平和的に発展していくために、民族・宗教・文化・国籍の違いを越えて、

相互に理解できる、国際的な感性と知性を備えた人材を育成する拠点となることをめざしている。4月3日の入学式で坂本和一学長は英語で「APUは多様な人たちが集うマルチカルチュラル(多文化)キャンパスで、アジア太平洋の発展をリードする人材を養成する」とあいさつした。

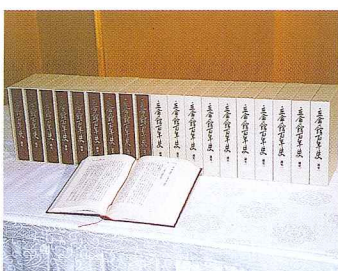




アート・リサーチセンター開設(1999年)
衣笠キャンパスの芸術・文化の新しい
研究拠点



アート・リサーチセンター開設記念連続講演会で
講演する15代目片岡仁左衛門丈



『立命館百年史』第一巻刊行(1999年)



立命館アジア太平洋大学韓国事務所開設(1998年)



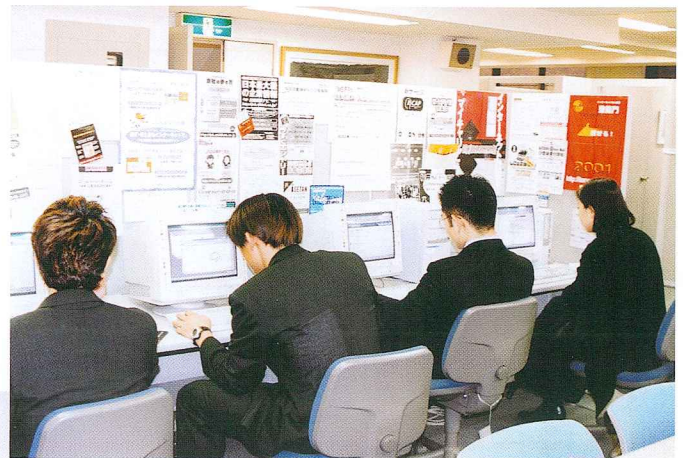
『立命館百年史』第一巻刊行祝賀会(1999年)



ワイツゼッカー前大統領(統一ドイツ初代大統領)が来学(1999年)



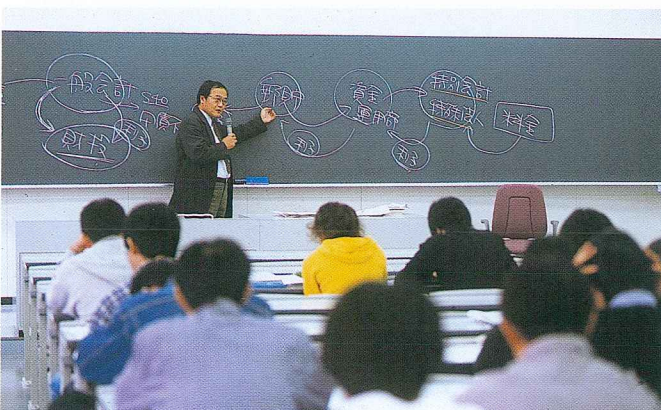
OB・OGの協力を得て開設している東京オフィス内の進路・就職相談コーナー



立命館大学東京オフィス開設(1999年)



立命館アジア太平洋大学インドネシア事務所開設(1998年)



BKC新展開を機に開設された文理総合インスティテュート(1998年)



学術フロンティア共同研究センター開設(1998年)



経済・経営学部のBKC新展開で新しい教育・研究拠点となったアクロスウイング(1998年)



国際関係学部創立10周年記念シンポジウム(1998年)

立命館と京都リサーチパーク株式会社などが
 発起人となり、大学の技術移転を本格的にすすめる
 関西TLO株式会社を設立(1998年)



松本記念ホール「陪審法廷」 京都地方裁判所より移設・竣工(1998年)



大分県、別府市と立命館アジア太平洋大学設置の基本協定を締結(1997年)
(左から古手川茂樹大分県議会議長、川本八郎立命館理事長、平松守彦大分県知事、井上信幸別府市長、加藤義則別府市議会議長)



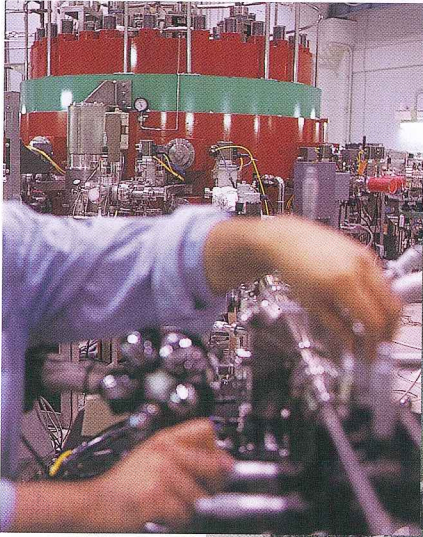
ジャック・サンテール欧州委員会委員長が来学(1996年)



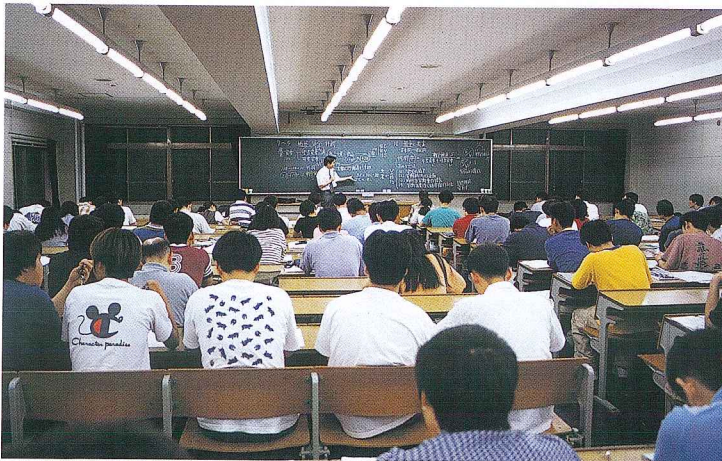
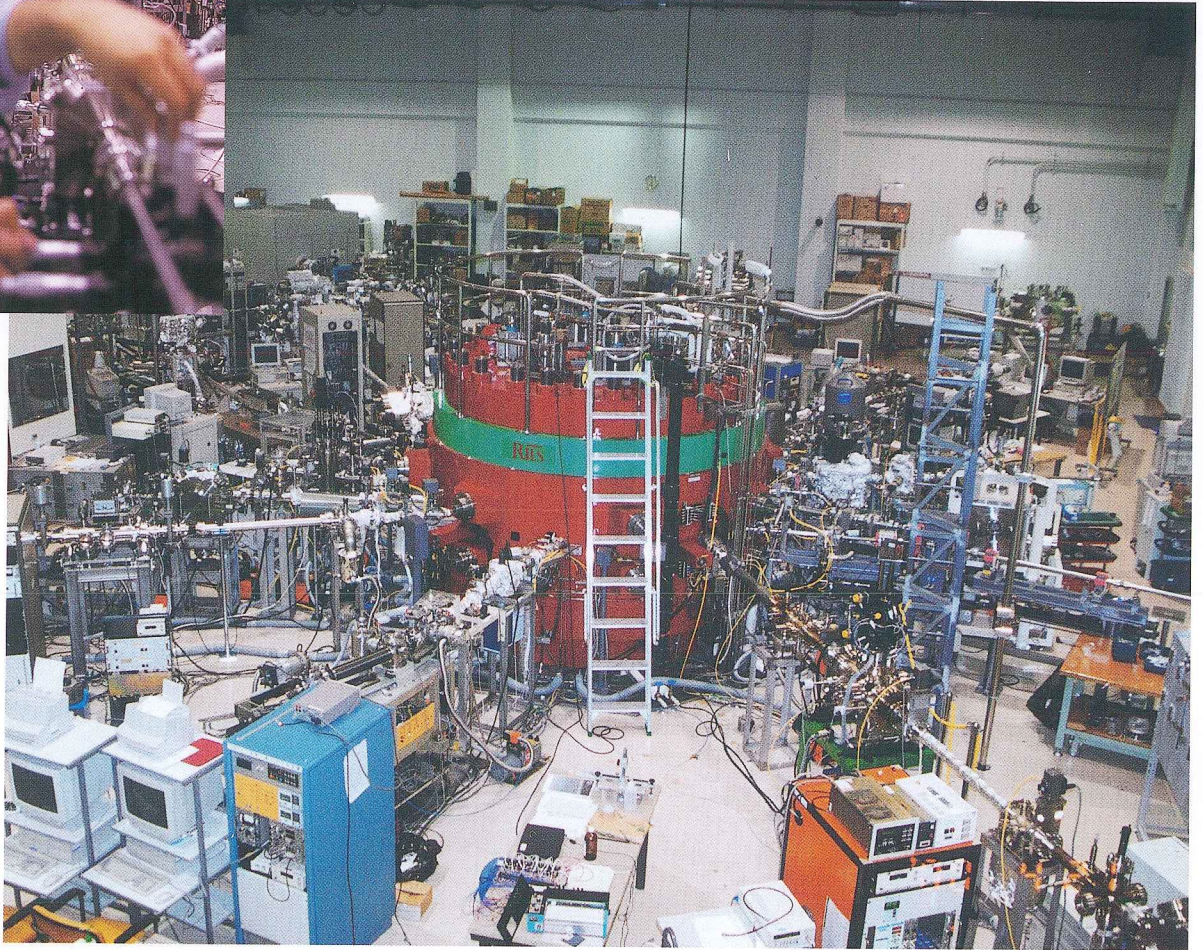
BKCに産学連携ラボラトリーを開設(1996年)



BKCにハイテク・リサーチ・センター開設(1997年)



SRセンター開設(1996年)
私立大学のもつ唯一の小型放射光装置で光の発生・利用に関する基礎理論から応用までを研究



昼夜開講制スタート
様々なライフスタイルを持つ学生の
フレキシブルな学びを実現



幅広い世代の人々から高まる大学教育への
要求に応える社会人入試



新キャンパスに移転した立命館大学慶祥高等学校(1997年) 広大なキャンパスに充実した教育施設が揃う

立命館ゆかりの地

第3番目の附属校を開校

立命館慶祥中学校・高等学校 北海道キャンパス

立命館慶祥中学・高等学校の前身である札幌高等計理学校の開設は、1935年。創設者の足羽慶保は、立命館大学法経学部を卒業した校友である。浪速高等商業学校(現・大阪経済大学)の教授を務めた後、創設に着手した。掲げてきた教育の信条は、「私学は誇り高くなければならぬ」ということである。戦後は、慶祥学園を母体とする札幌経済高等学校に、96年度より男女共学の「立命館大学慶祥高等学校」として、新たな一歩を踏み出したが、その教育信条は、今も脈々と受け継がれている。

97年春、札幌の街並みを見下ろす野幌森林公園の隣接地に校舎を新設。札幌の副都心「新さっぽろ」駅から車で約10分の豊かな緑に囲まれた丘に、17haの広さを誇っている。教育施設の充実ぶりも類まれなものである。98年春には、生徒専用の男女寮も完成した。

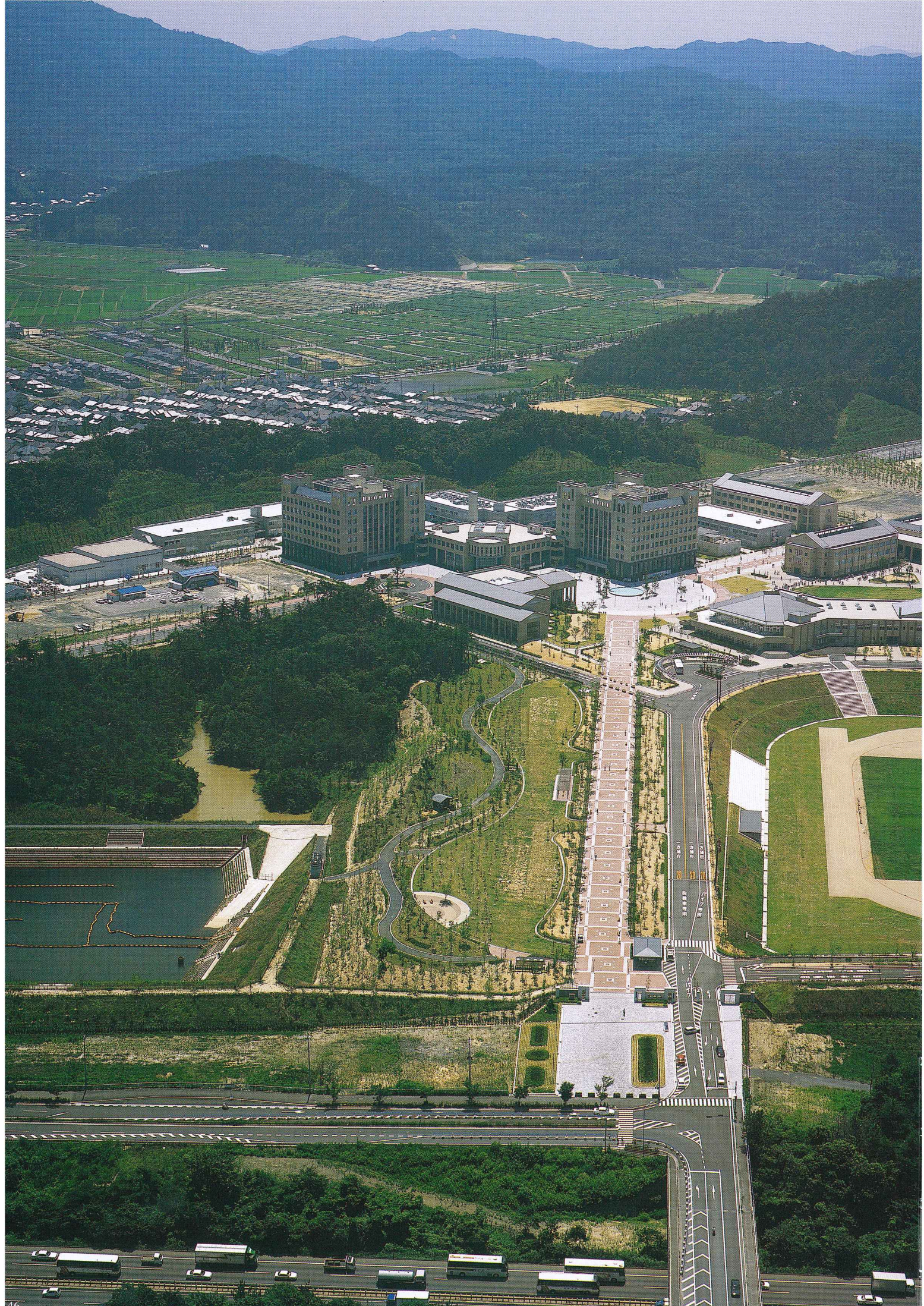
本年度からは、校名を立命館慶祥高等学校と改めるとともに、中学校も開校。中・高・大・院一貫教育が実現した。ゆとりある教育環境に

よって、高い学力の養成と多様な個性、能力の伸長をめざしている。現在も高い評価を得ているのは、視聴覚設備やOA機器を活用した国際化、情報化教育。

海外研修も実施している。また「立命館大学進学コース」「大学進学コース」をメインに生徒のより高い進路目標を設定し、難関大学入試に合格できるカリキュラムを編成して徹底した進学教育と受験指導を行っている。



開放的な北海道キャンパスのアトリウム



飛躍と拡充の時代

1995-1991

宗教や民族を巡る地域紛争が多発し、日本の国際的役割があらたに問い直された時代である。立命館はこの時期、21世紀を見据えた第4次長期計画を策定した。びわこ・くさつキャンパス(BKC)を開学し、理工学部が先陣を切って移転するとともに、情報学科、生物工学科、環境システム工学科を新設した。衣笠キャンパスにも政策科学部を新設。学園の国際化の取り組みも進み、カナダのプリティッシュ・コロンビア大学とのジョイントプログラム、アメリカン大学との共同学位プログラムを発足。双方の学生が共同生活する新しい留学プログラムが始まった。さらに平和教育・研究の拠点として国際平和ミュージアムを開館。立命館宇治高等学校が新たに附属校として加わり、総合学園としての機能を拡充した時代である。

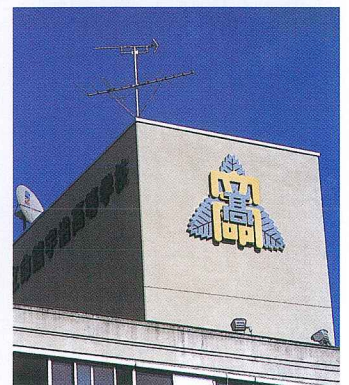
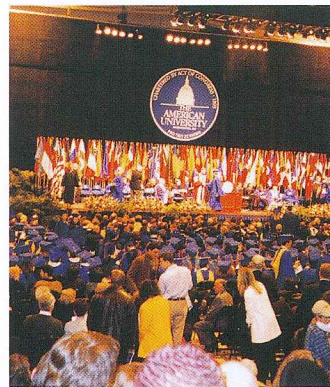
1995 平成 7 年 学校法人慶祥学園と法人合併調印／大阪オフィス開設／川本八郎、理事長に就任／世界大学生平和サミット開催／研究所総合機構設置／ヨーロッパ審議会寄託図書館設置

1994 平成 6 年 びわこ・くさつキャンパス開設、理工学部拡充移転／理工学部情報学科・生物工学科・環境システム工学科設置／政策科学部設置／学校法人宇治学園と法人合併調印／立命館宇治高等学校開校／総合理工学研究機構設置／大南正瑛、総長再選／立命館大学・アメリカン大学共同学位プログラム発足

1993 平成 5 年 びわこ・くさつキャンパス竣工／株式会社クレオテック設立

1992 平成 4 年 アカデメイア立命21竣工、衣笠セミナーハウス開設／大学院国際関係研究科設置／父母教育後援会設立／国際平和ミュージアム開設／カナダに「立命館・UBCハウス」開設

1991 平成 3 年 立命館・UBCジョイント・プログラム開始





立命館大学大阪オフィス開設(1995年)



ヨーロッパ審議会寄託図書館設置(1995年)
第二次世界大戦後、欧州の統合を目的に作られた機関である
ヨーロッパ審議会の公式記録や出版物を収集



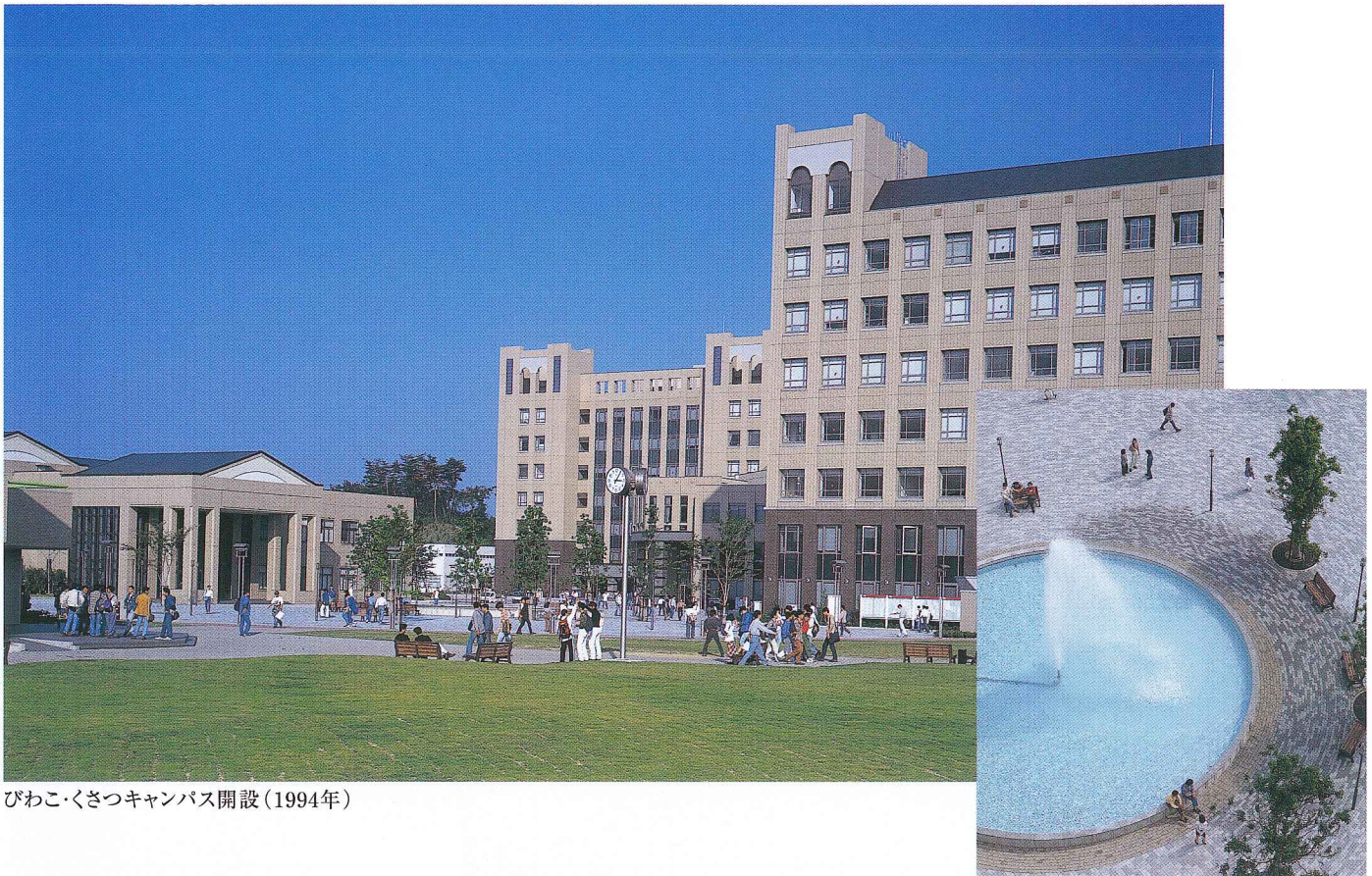
BKCプリズムホールで行われた世界大学生平和サミット総会
36ヵ国1地域の100大学から500名が参加し11の分科会に分かれて
平和について英語での議論が繰り広げられた



参加学生たちは祈りを込め、平和の鐘を打ち鳴らした



立命館宇治高等学校開校(1994年)



びわこ・くさつキャンパス開設(1994年)

立命館ゆかりの地

社会の要請に応える教育・研究の高度化を通して地域の活性化を図る ＜立命館大学 びわこ・くさつキャンパス(BKC)＞

高度に発達した科学技術に人間の暮らしや地球環境との調和が求められ、転換点にさしかかったのは、1980年代後半から。こうした社会の要請に応えるため、本学でも理工学部の抜本的な改革と拡充に重点を置いた、第4次長期計画を策定した。

学部・学科の再編と新設、大学院の再編と拡充、学生・大学院生の規模拡大、これらにふさわしい教育・研究施設の確保が必要という画期的な内容であった。これを実現するためには少なくとも40ha以上の土地を確保しなければならない。しかし、衣笠キャンパス周辺にはすでに拡張の余地がなく、土地利用の法的制限もあったのである。

この状況に呼応するように、滋賀県および草津市から「びわこ文化公園都市」へのキャンパス誘致の呼びかけがあった。近畿広域都市圏として豊かな将来性を持つロケーションに加えて、用地取得と粗造成工事に伴う費用を援助するという条件の提示、そして熱意あふれる誘致に応じて、滋賀県草津市への拡充移転を決定した。

県や市としては、本学の進出による地域の活性化、教育文化の向上、地元企業への技術的な貢献などを期待しての英断であったに違いない。

BKCでは現在61haの用地を確保。時代のニーズを先取りした「次世代キャンパス」にふさわしい規模と内容となった。94年、理工学部の拡充移転を皮切りに、現在では、経済学部、経営学部、文理総合インスティテュートの学生たちが最新の先端科学と社会科学がクロスする文理融合型キャンパスで、積極的に学んでいる。



びわこ・くさつキャンパスのシンボル棟アクロスウイング



恒久平和の
願いを込め
国際平和ミュージアム
ロビーに飾られた
手塚治虫氏作品
「火の鳥」の陶板
向こうに見えるのが
わたつみの像



父母教育後援会設立総会 (1992年)
本学園に学ぶ学生の父母・保証人の自主的な組織として発足
全国各地での教育懇談会や会報を通じ、大学のあり方や
成長していく学生たちの学生生活、就職問題などを大学とともに考える



国際平和ミュージアム開設 (1992年)
戦争の実態や悲惨さ、苦難を伝え
平和の尊さを考えるため設立された博物館

アカデミア立命21が竣工 (1992年)
国際平和ミュージアムのほか、国連寄託図書館・ヨーロッパ審議会寄託図書館
などで貴重な資料を収集できる
3・4Fにはセミナーハウス機能をおいている



エクステンションセンター開設 (1992年)
「司法」「国家公務員I種、外交官」「公認会計士」などの難関試験や
各種資格講座・語学系講座などを開講



立命館・UBCハウス開設
(1992年)



立命館・UBCジョイントプログラム(1991年)
カナダのプリティッシュ・コロンビア大学(UBC)と共同で開発
した日本初の留学制度
毎年100名の学生を8カ月間UBCへ派遣する



立命館大学・アメリカン大学学位共同プログラム(1994年)
最短4年間で、立命館とアメリカン大学両方の学士の学位を
取得することができる日本ではじめてのプログラム

立命館ゆかりの地

総合学園としてのメリットを活かす 高・大・院一貫教育を実現 ＜立命館宇治高等学校 宇治キャンパス＞

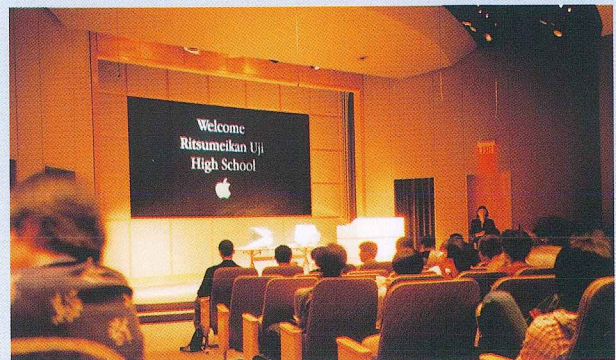
立命館宇治高校の前身である宇治洋裁女学院の創立は、1946年。2年後には、宇治高等技芸学校として京都府知事から各種学校の認可を受け、各種学校教育の振興に大きく貢献した。

1960年代に入り、戦後のベビーブーム期の生徒の高校入学時期を迎えた。急増する高校進学希望に応え、65年、現在の地に宇治高等学校が誕生。当初は、全日制家庭科のみで開校。翌年には商業科女子を併設し、その後商業科の男女共学化、さらに68年には共学の普通科を設置した。84年に商業科を、93年に家庭科を廃止して、普通科のみとなる。91年から普通科に、英国、英数、国際の3つの特進コースを設置。94年には文理コースを開設するなど、生徒の多様な能力、適性、進路に対応するための改革を行った。

また国際化時代に即応して、カナダのブロックルハースト高校、ニュージーランドのランギト・カレッジやネイランド・カレッジと姉妹提携を結んだ。交換留学制度や修学旅行などを実施し、国際交流の一翼を担ってきた。

伝統あるスポーツ活動の活躍もめざましく、これまでに女子ソフトボール、剣道、レスリング、陸上競技、野球など、多くのクラブが全国に名をはせている。

このような成果のうえにたって94年8月立命館との法人合併により立命館宇治高等学校として新たに発足。総合学園としてのメリットを活かし高・大・院一貫教育、国際化、情報化を三本柱として特色あるカリキュラムを編成している。



立命館宇治高等学校の入学レセプション



調和と創造の時代

1990-1984

東西冷戦が終焉を迎える一方、社会は高度情報化へ動き始めた。本学園でも、理工学部情報工学科を設置し、情報教育を拡充。図書や就職情報の検索システム、全部課へのコンピュータ導入も行った。また語学力や国際感覚を養成する国際関係学部を開設する一方、海外の大学や研究機関と協定を結び、交換留学や海外セミナーも制度化した。各学部への外国人語学教育補助員の配置、教員海外留学の拡充なども実施。さらに、立命館中学校・高等学校を深草学舎へ拡充・移転し、男女共学化を実現した。21世紀に向けた学園創造の基盤となる情報化、国際化が飛躍的に進んだ時代である。

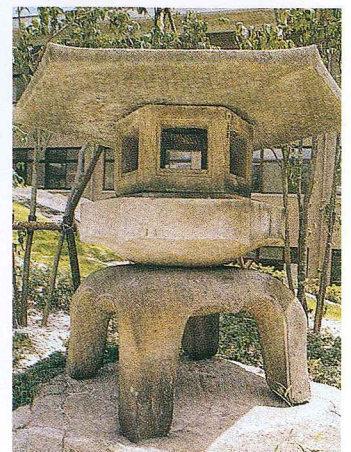
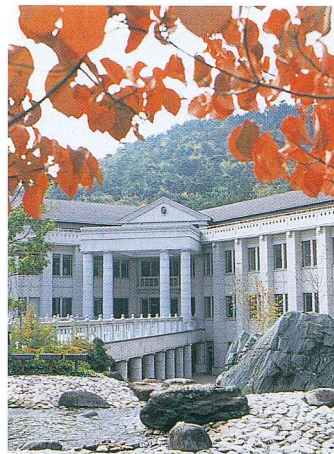
1990 平成2年 インターナショナル・ハウス設置／教育科学研究所設置／明学館竣工／大南正瑛、総長に選出、91年1月就任

1989 平成1年 滋賀県、草津市と「びわこ・くさつキャンパス」設置協定調印／尽心館竣工／国際言語文化研究所設置／第2尚友館竣工

1988 昭和63年 西園寺記念館・4号館竣工（現洋洋館）／国際関係学部設置／国際地域研究所設置／立命館中学校・高等学校北大路学舎閉校、深草学舎竣工・移転／谷岡武雄、総長に再選／尚学館竣工／京都国連寄託図書館を運営受託

1987 昭和62年 理工学部情報工学科設置

1984 昭和59年 谷岡武雄、総長に選出、85年1月就任／尚友館竣工





立命館創始120年・学園創立90周年記念式典(1990年)であいさつをする西村清次前理事長



短期留学生などを受け入れる国際的・ハウス設置(1990年)



尽心館竣工(1989年)



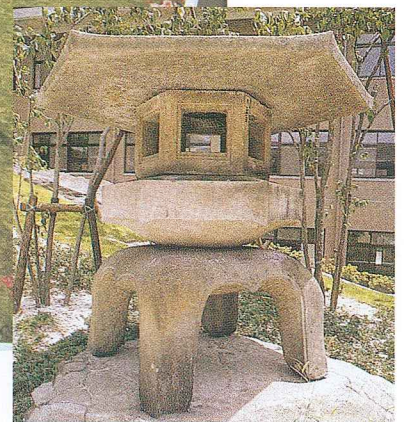
京都国連寄託図書館移転・開館(1988年)



国際関係学部開設(1988年)



立命館中学校・高等学校が深草学舎へ拡充移転し男女共学化を実現(1988年)



西園寺公望邸より、深草学舎に移設された石灯籠

立命館ゆかりの地

北大路学舎から深草学舎へ拡充・移転を機に男女共学化を実現 〈立命館中学校・高等学校 深草学舎〉

立命館中学校・高等学校の旧学舎は、1922年に旧広小路学舎から北大路へ移転。以来66年の長きにわたり幾多の有望な若者が巣立っていった。しかし、生徒数の増加や環境の変化により手狭となり、移転を決意。新学舎に選ばれたのは、京都市伏見区深草の緑と光あふれる丘陵地。88年8月29日、晴れて開校の運びとなった。

ギリシャ神殿風の柱が並ぶ普通教室のベランダから伏見桃山城が望める新学舎の眺望のよさは、この上ないものである。敷地面積も、旧北大路学舎の約8倍という広さ。そこには、大規模な体育館、競技場、プールのほか、地域住民にも可能な限り開放される約1000名収容の記念ホールや、ミニコンサートなどが開催できる野外ミニステージも設けられた。また中庭には、西園寺公望邸より石灯籠が移設された。

深草学舎への移転は、立命館中学校・高等学校の歴史始まって以来の大事業。またこの移転を期に、男女共学化という一大改革も

実施された。伝統の中・高・大・院一貫教育をさらに充実させ、流動する時代の中にあっても、「自由と清新」の校風は大切に継承することを、教職員、生徒たちは誓い合い、新たな歴史の第一歩を踏み出した。



立命館中学校・高等学校 深草学舎

立命館土曜講座

2000回記念講演会
—国際化の時代—



2000回目を迎えた立命館土曜講座(1988年)
講師 武者小路公秀氏

西園寺公望レリーフの除幕式(1988年)



西園寺記念館竣工(1988年)



短期留学生の1年間の受入れプログラムがスタート(1987年)



1986年にスタートした海外セミナー
現在では「異文化理解セミナー」と名称を変え
内容も充実し、10カ国11大学で行われている



海外セミナー トゥールズ・ル・ミラーユ大学(フランス)での授業風景

立命館ゆかりの地

広小路から緑豊かな衣笠へ —衣笠キャンパスへの一拠点を実現— 〈立命館大学 衣笠キャンパス〉

「もはや戦後ではない」と言われ、経済が急成長。大学進学率も一気に高まり、立命館大学でも学生数が激増した。また社会が望む人材も新たな展開をみせ始めた時代である。本学でも、経営学部と産業社会学部の開設を決定。一方、マスプロ教育の弊害を排し、小集団教育体系の充実という課題も抱えていた。しかし、本学発祥の地でもある広小路キャンパスはあまりにも手狭で、周辺に用地を確保することもままならない状況であった。教学の充実とともに将来の発展を期すためには、どうしても新天地を求める必要に迫られていたのである。

衣笠キャンパスへの移転が始まったのは、1965年。経済学部と経営学部から始まり、81年の法学部を最後に全学の移転が完了した。

新時代の教学をめざした移転だったが、思わぬ副産物も生まれた。一例を紹介しよう。キャンパスから歩いて10分くらいで金閣寺に行けるという好立地から端を発していた。学生たちは、授業の合間や終えてから、京都でしか味わえない散策の楽しみを発見。まず金閣寺へと

向かい、そして本学正門にほど近い堂本美術館で芸術鑑賞。キャンパスに沿って通る、通称「きぬかけの道」をそぞろ歩けば、石庭で知られる龍安寺へ。さらに歩を進めれば、仁和寺、嵐山へと続く。学生たちには、格好の散策コースとなった。



周辺の景観にめぐまれた衣笠キャンパス

戦争放棄を掲げた新憲法のもとに再スタートをきった日本。経済と生活の復興から高度経済成長へと移っていく。本学園でも、敗戦後、すぐに授業を再開した。1949年には、総長公選制によって末川博が第1回公選総長になる。理事会・教授会・学友会・教職員組合など、すべての学園組織による全学協議会を設置するなど、民主的、自治的な学園運営を実現させた。教学理念の「平和と民主主義」が確立されたのもこの時期である。62年に経営学部、65年に産業社会学部を新設。広小路から衣笠キャンパスへの移転が65年から始まり、81年の法学部の移転によって一拠点化が完成した。これによって小集団教育を軸とした教学内容が一層充実し、総合大学として発展のときを迎えたのである。また60年代後半の大学紛争の荒波も、全学の力を結集して克服した。



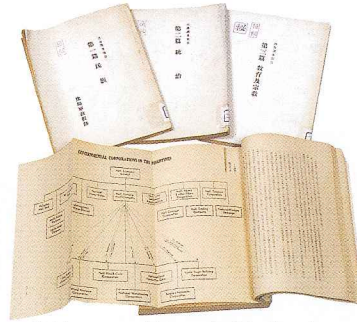
振興と変革の時代

1983-1945

-
- 1983 昭和58年 末川記念会館竣工
1982 昭和57年 天野和夫、総長に再選／原谷グラウンド竣工
1981 昭和56年 広小路学舎閉校祭典を開催／法学部衣笠学舎に移転／西村清次、理事長に就任／存心館、第二体育館竣工
1980 昭和55年 平野会館開館
1979 昭和54年 大学本部、衣笠学舎に移転／本部棟中川会館、研心館竣工
1978 昭和53年 文学部、二部全学部衣笠学舎に移転／天野和夫、総長に選出、7月就任／朱雀寮開設
1977 昭和52年 清心館竣工／末川博名誉総長逝去／氷室グラウンド竣工
1976 昭和51年 7号館（現諒友館）竣工
1975 昭和50年 宇多野（現嵯峨野）セミナーハウス開設
1974 昭和49年 細野武男、総長に再選／志学館竣工
1973 昭和48年 学生会館竣工／新衣笠寮開設
1972 昭和47年 大学院社会学研究科設置／双ヶ丘寮開設
1971 昭和46年 木村嘉一、理事長に就任
1970 昭和45年 学部長選挙規程制定／武藤守一、総長に選出、2月就任／産業社会学部、衣笠学舎に移転／細野武男、総長に選出、11月就任／校野総合グラウンド竣工／蓬萊（現琵琶湖蓬萊）セミナーハウス開設／学而館竣工
1969 昭和44年 寮連合、中川会館封鎖／末川博、総長任期満了退任／体育館（現第一体育館）竣工
1968 昭和43年 大学紛争発生
1967 昭和42年 図書館（中央図書館）竣工
1966 昭和41年 大学院経営学研究科設置／修学館、1号館（現啓明館）竣工
1965 昭和40年 末川博、総長に五選／産業社会学部設置／経済・経営両学部、衣笠学舎に移転／以学館、6号館（現恒心館）竣工
1964 昭和39年 二部理工学部基礎工学科設置／学思寮開設
1963 昭和38年 5号館竣工／理工学研究科設置
1962 昭和37年 経営学部設置／広小路恒心館竣工
1961 昭和36年 末川博、総長に四選／学園振興懇談会設置／4号館（現有心館）竣工／広小路有心館竣工
1960 昭和35年 小田美奇穂、理事長に就任
1958 昭和33年 広小路敬学館、体育館竣工
1957 昭和32年 末川博、総長に三選／広小路清心館・尚学館竣工
1956 昭和31年 2号館竣工
1955 昭和30年 理工学研究所設置
1954 昭和29年 立命館短期大学廃止／3号館竣工／百万遍寮、下鴨寮開設
1953 昭和28年 末川博、総長に再選／広小路研心館、興学館竣工／出町北寮開設
1952 昭和27年 神山中学校・高等学校および夜間高等学校を立命館中学校・高等学校に統合／大学院工学研究科設置／広小路学生会館竣工
1951 昭和26年 財団法人立命館を「学校法人立命館」に組織変更／春寮開設
1950 昭和25年 立命館短期大学設置／大学院法学・経済・文学研究科設置／大学協議会設置／衣笠寮開設
1949 昭和24年 総長選挙規程設定／北川敏夫、理事長に就任／総長選挙、末川博当選、4月就任／理工学部設置
1948 昭和23年 学長制廃止、総長制に改正／末川博、総長に就任／新制「立命館大学」（法学部・経済学部・文学部、一・二部）設置／立命館研究所を立命館大学人文科学研究所に改組／新制「立命館高等学校」、同「神山高等学校」、「立命館夜間高等学校」設置／全学協議会設置
1947 昭和22年 新制「立命館中学校」、「立命館神山中学校」設置
1946 昭和21年 立命館土曜講座始まる
1945 昭和20年 岡善吉、理事長に就任／松井元興、名誉学長に推挙／末川博、立命館大学学長兼専門学部長に就任／立命館研究所を設置
-



衣笠キャンパスに末川記念会館が竣工(1983年)



世界にこの1冊しか存在しないと
言われる「比島調査報告」



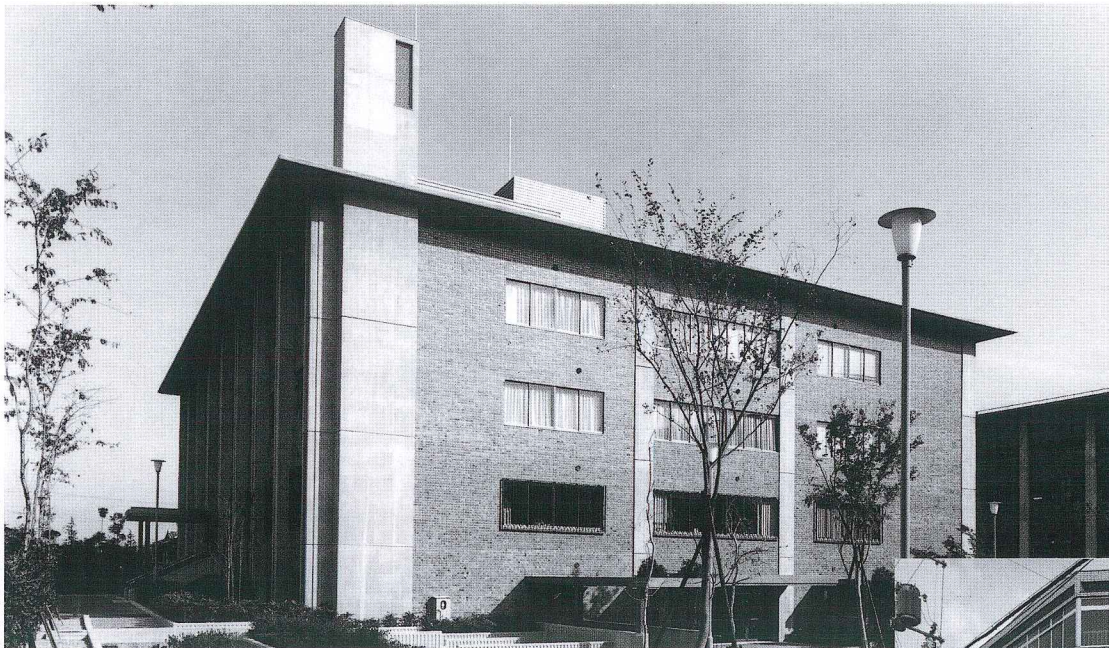
故・末川博名誉総長の蔵書
1万2千余点を所蔵する『末川文庫』



室町時代以降の史料及び和漢書、
洋書など1万3千余点を所蔵する
『西園寺文庫』



4,600点にのぼる歌集・短歌雑誌などで
構成される『白楊荘文庫』



大学本部、衣笠キャンパスへ移転(1979年)



学生会館竣工(1973年)



柗野総合グラウンド(1970年)



平野会館開館(1980年)



衣笠キャンパスに第一部経済・経営両学部が移転(1965年)



衣笠キャンパスに図書館竣工(1967年)

立命館ゆかりの地

明治・大正・昭和を通して 学生たちを育んだ発祥の地 〈立命館大学 広小路学舎〉

1900年5月、夜学校「京都法政学校」として産声をあげた立命館大学。当時の教室は、鴨川畔東三本木にあった旗亭「清輝楼」の座敷であった。翌年には、寺町広小路に2,200㎡余りの土地を購入。払い下げられた府立中学校の校舎が移築された。ここに本校舎が完成し、広小路キャンパスの歴史が始まった。

以来、81年にその役割を終えるまで、明治、大正、昭和の長きにわたり、幾多の学生を育み、時代の荒波をとともに乗り越えていった。近代から現代に至る日本の変遷を見続けることになった。

広小路キャンパスのシンボリックな存在だったのが、「わだつみ像」。第2次世界大戦では、多くの学生が戦場に駆り出された。本学も例外ではない。約3,000人の学生が出陣し、多数の犠牲を強いられた。これら戦没学生の悲痛な体験を後世に伝え、反戦・平和の誓いを新たにしようと建立された。学生たちの“なげき、怒り、もだえ”を象徴化したものだ。

御所と鴨川には生まれ、京大、同志社とも近く、学生たちにとっては、まさに京都で学んでいることが実感できる得難い立地条件であった。しかし、校舎・施設の老朽化に加え、あまりにも手狭であったため、教育・研究の進展に 대응することができず、80年の歴史に幕を閉じることになったのである。





1000回目を迎えた「立命館土曜講座」(1966年)



産業社会学部の第1回入学式(1965年)



広小路に大学院棟竣工(1950年)



テレビ大学講座放送開始
(1962年)



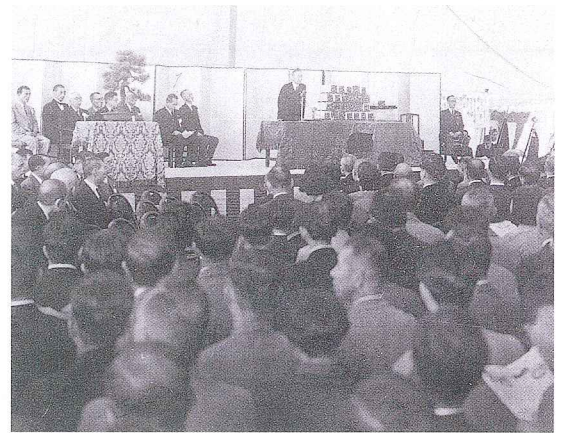
「わだつみ像」の除幕式(1953年)



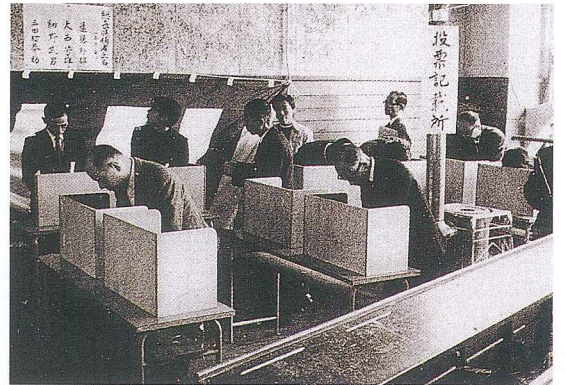
わだつみ像
平和を願って1953年に建立
戦没学生の「なげき、怒り、もだえ」を象徴し、本郷新氏により制作された



20年以上にわたり総長・学長をつとめた末川博



学園創立50周年式典(1950年)



第1回総長選挙 末川博当選(1949年)

立命館ゆかりの地

幾多の若者の青春を見守り続けた66年

<立命館中学校・高等学校北大路学舎>

立命館中学校・高等学校の前身は、1905年、広小路キャンパスに創設された私立清和普通学校である。当時の京都法政大学は夜間授業であったため、昼間は清和普通学校が校舎を使用した。翌6年に清和中学校、13年に立命館中学校と改称した。以降、大正デモクラシーの進展とともに、教育の世界も自由で創造的な空気に包まれた。20年前後は、立命館中学でも、野球部が全国大会で活躍するなどクラブ活動が盛んうえ、旧制高校などへの進学状況もめざましく、戦前における最もよき時代であった。一方、生徒数も増え、より充実した教育が求められ、校地の移転を決定、北大路学舎(北区小山西上総町)へ移ることになった。23年に第1・2学年が、翌年に残りの全生徒が新校舎へ移ったのである。

昭和初期に、日本のランボオとも呼ばれた詩人の中原中也が、山口中学から転入学してきたのが23年4月のこと。中原は卒業を待たず25年3月、東京へ旅立って行く。この頃のことを、中原は作品の中で「名

状しがたい何物かが、たえず僕を促進し、目的もない僕ながら、希望に胸は高鳴っていた」と振り返っている。また友人の河上徹太郎にあてた手紙に「行ってみたいのは、青海島…京都、ここでは一ト月くらい中学の時みたいに暮らしてみたい」とも綴っている。彼の生涯の中でも、立命館時代は刺激に満ち、思い出深いものであったようだ。

88年、その役割を深草学舎へ譲るまで、66年の長きにわたり、若者たちの青春の1ページをともに歩み続けたのである。



北大路学舎正面

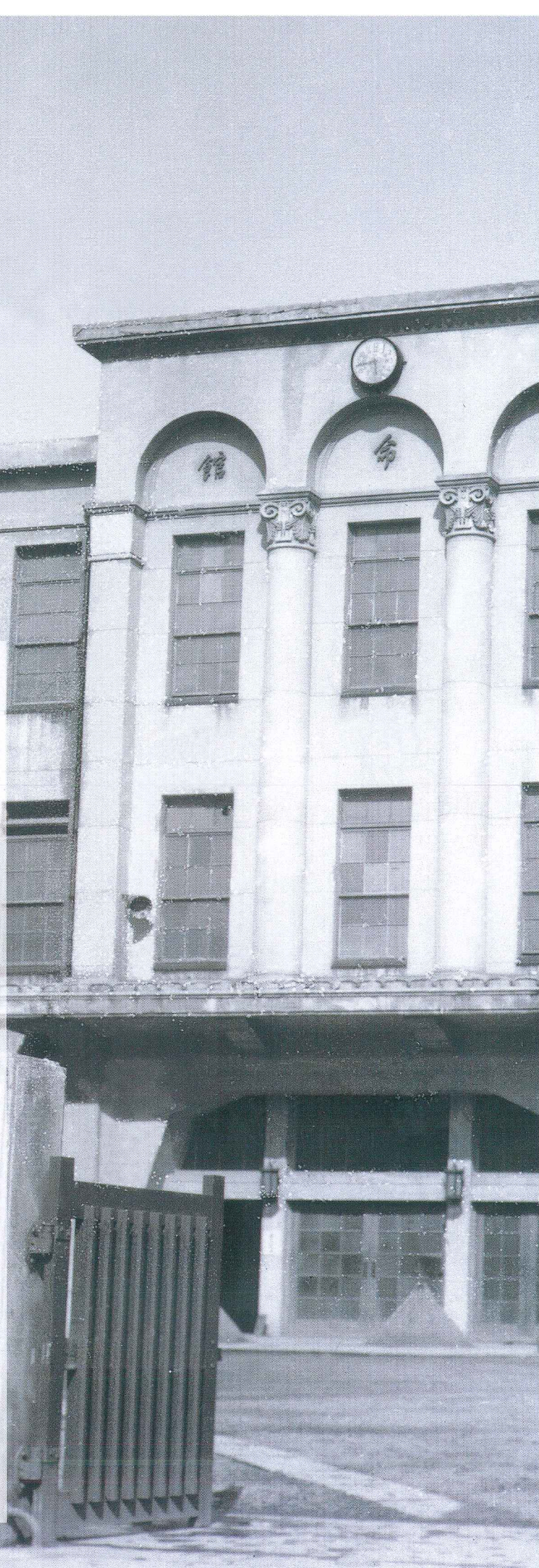
明治の開国によって西欧文化・文明を急速に吸収し、近代国家への道を歩み始める一方で、戦争体験を通じて、平和の大切さを実感した時代でもあった。日本社会が急激な変化を示したころ、本学園も産声を上げた。1869年、西園寺公望が開いた私塾「立命館」は、翌年に短い生命を閉じたのだが、勉学の気概に燃える若者が無為に過ごす姿に心を痛めた中川小十郎は、意を決し、西園寺の意思を引き継ぎ、1900年、夜学校「京都法政学校」を開校した。そして自由清新な学園の礎が築かれていった。33年には、学問の自由と大学の自治に対する政府の弾圧による「京大事件」で京大を辞職した教員たちを本学に招請。教学内容が飛躍的に充実し、社会的な評価も一気に高まった。戦争の影響を受けた時期もあったが、最高学府としての揺るぎない基盤づくりをした時代である。



西園寺公望



中川小十郎



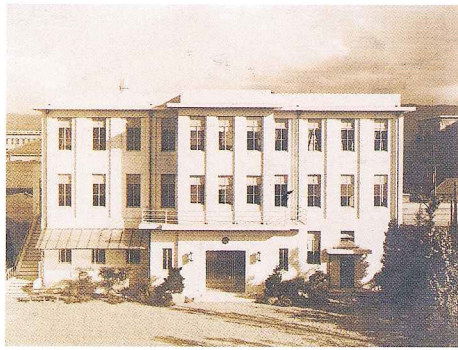
草創の時代

1944-1869

-
- 1944** 昭和19年 戦時非常措置に関する文部省通達により専門学部を「立命館専門学校」に改組、大学は停廃となる／松井元興、立命館専門学校長に就任／中川小十郎総長逝去／石原廣一郎、理事長に就任
- 1942** 昭和17年 日滿高等工科大学を立命館大学専門学部工学科に昇格／専門学部理学科開設／立命館同学会（校友会）会則制定
- 1941** 昭和16年 松井元興、学長に就任／大学法経学部を法文学部（法政学科・文学科）に改め、専門学部も改組（法政学科・文学科・高等商業科）／国防学研究所設置
- 1940** 昭和15年 田中昌太郎、学長に就任／西園寺公望逝去／西園寺公望を「学祖」とすることを決定
- 1939** 昭和14年 立命館高等工科大学を「立命館日滿高等工科大学」に改め、等持院北町の新校舎で開校
- 1938** 昭和13年 「立命館高等工科大学」を北大路校地に設立／西園寺文庫創設
- 1937** 昭和12年 立命館商業学校夜間部、立命館夜間中学開校
- 1936** 昭和11年 佐々木惣一、学長辞任、名誉学長に推挙／広小路中川会館竣工
- 1935** 昭和10年 池田繁太郎、理事長に就任
- 1934** 昭和9年 佐々木惣一、学長に就任
- 1933** 昭和8年 専門学部に高等商業科設置／京大事件で辞職の教授・助教から17名を招聘／田島錦治、名誉学長に推挙
- 1931** 昭和6年 大学夜間部開校／館長を「総長」と改称／中川小十郎、初代総長就任／織田萬、立命館名誉総長に推挙／校歌できる（作詞明本京静・作曲近衛秀麿）
- 1930** 昭和5年 法経学部商学科開講
- 1929** 昭和4年 大学・大学予科の夜間制開設認可／大学予科の夜間授業開始／立命館商業学校設立
- 1928** 昭和3年 専門学部に商学科設置／大学法学部を法経学部に改組し、法律学科・経済学科の他に商学科開設／私立立命館中学校を「立命館中学校」と改称／立命館禁衛隊結成
- 1927** 昭和2年 専門学部に文学科を設置／田島錦治、学長に就任
- 1925** 大正14年 図書館を「立命館文庫」と改称し開館
- 1923** 大正12年 大学令による大学設立に伴い、専門学校令準拠の立命館大学を「立命館大学専門学部」（法律科・経済科）に改める／大学令による予科開講
- 1922** 大正11年 大学令（旧制）による「立命館大学」設立、法学部（法律学科・経済学科）、研究科、大学予科設置認可／中学校、小山上総町に校舎新築、移転／富井政章、大学令による学長に就任
- 1919** 大正8年 「立命館大学」と改称／全国校友会結成
- 1915** 大正4年 図書館設置
- 1913** 大正2年 「財団法人立命館」設立認可、館長制を敷き中川小十郎、館長に就任／大学を「私立立命館大学」、中学校を「私立立命館中学校」に改称／校旗制定
- 1906** 明治39年 清和普通学校、中学校令により「私立清和中学校」に改組／大学構内に中学校新校舎竣工
- 1905** 明治38年 西園寺公望より「立命館」の名称継承を許諾、「立命館」の大扁額寄贈される／私立京都法政大学付属「清和普通学校」を創設
- 1904** 明治37年 専門学校令による「私立京都法政大学」に改称／専門部（法律学科・行政科・経済学科・高等研究科）、大学部（法律学科・経済学科）、大学予科を設置／専門部は夜間制、大学部は昼間制
- 1903** 明治36年 「私立京都法政学校」を専門学校令による「私立京都法政専門学校」に改める／「東方語学校」を付設
- 1901** 明治34年 上京区中御堂町410に校舎を新築、仮校舎より移転
- 1900** 明治33年 中川小十郎「私立京都法政学校」設立願を京都府知事に提出、認可／上京区東三本木丸太町上仲ノ町の仮校舎（元清輝楼）において開校／夜間三年制／校長富井政章、学監中川小十郎
- 1869** 明治2年 西園寺公望、邸内に私塾「立命館」を創設
-



立命館日満高等工科学校
航空発動機科・実習(1939年)



広小路・中川会館(1936年)

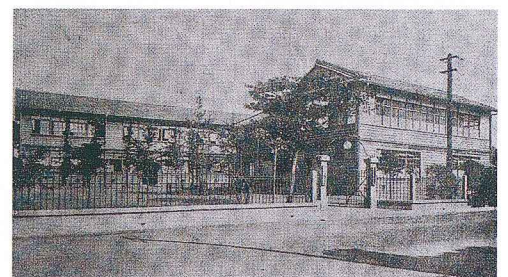
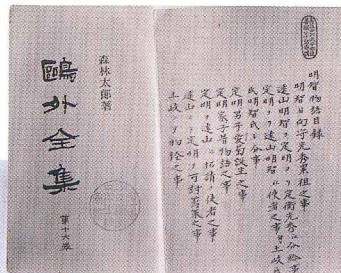


広小路・中川会館公室

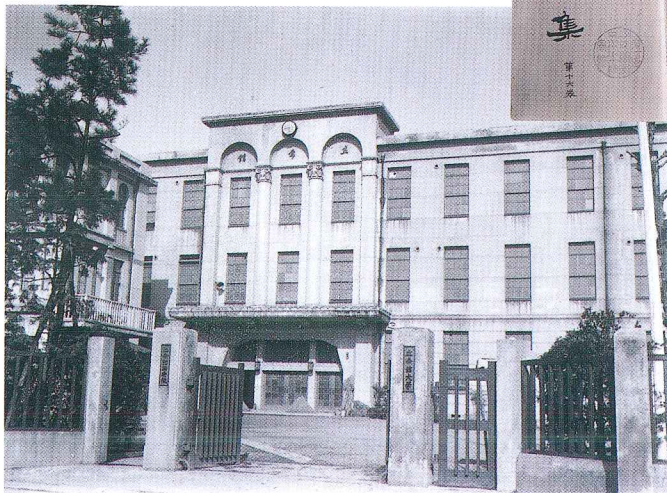


立命館学園の原点「清輝楼」

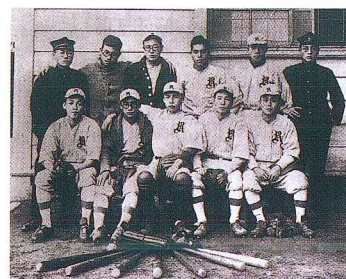
立命館文庫に中川小十郎が寄贈した図書の一部
『鷗外全集』と『明智物語目録』



大正時代の広小路学舎(1913年)



広小路学舎の旧存心館(1928年)



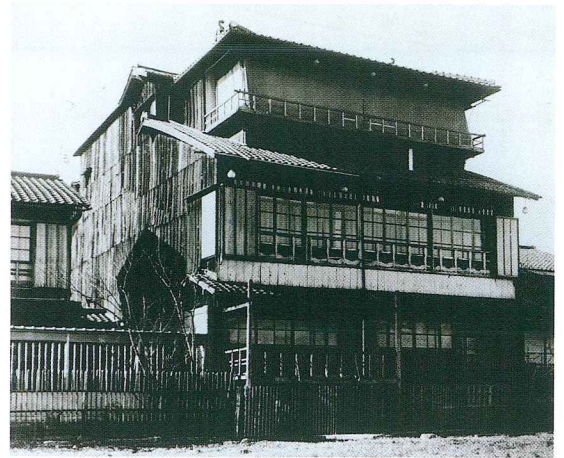
京都・大学専門学校連盟春季リーグ
優勝した硬式野球部(1926年)



校章



西園寺の意志を引き継ぎ京都法政学校、立命館大学を創立した中川小十郎



旗亭「清輝楼」の2・3階座敷を教室として開校(1900年)



京都法政大学附属
立命館中学校の
北大路新校舎
落成・移転(1922年)



『御堂閨白記』出版(1936年)

立命館ゆかりの地

勤労学生たちが懸命に学んだ 立命館草創の地 ＜旗亭「清輝楼」＞

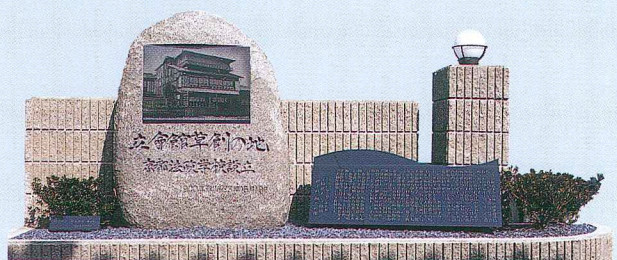
立命館大学の前身である、夜学校「京都法政学校」は、1900年5月19日、中川小十郎によって、鴨川畔東三本木の地に創立された。6月5日から夜間授業が始まる。仮校舎は、当時の名高い旗亭「清輝楼」の2・3階であった。まさにここが、立命館草創の地である。第1期生は、法律科220名、政治科110名であったが、中途退学者があつて158名が卒業したという。学長は京都出身の法学界の長老・富井政章、教頭は京都帝国大学教授の井上密(のち京都市長)、学監は中川が務め、岡松参太郎、織田萬らの京大教授が講師となった。当時、その分野で一流の講師陣による講義が、勤労学生のために開始されたのである。

畳敷きの大広間に数十脚の飯台を並べ、天井には油煙のにおい漂うランプがつるされた下で、青雲の志と勉学の意欲に燃える学生たちは懸命に学んだ。

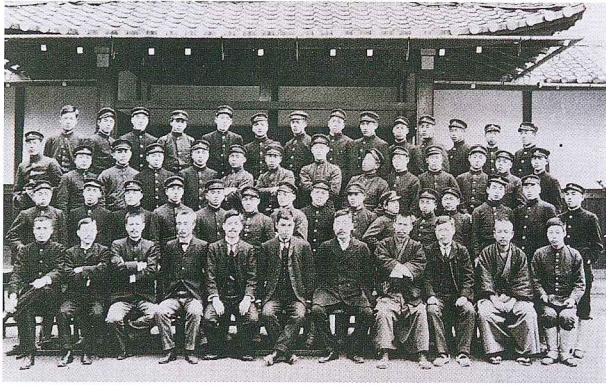
中川は、西園寺公望の最初の文部大臣在任中に、特命による唯

一の大学書記官として京都帝国大学(現・京都大学)の創立に尽力した。その傍ら、京都の地でもう一つの「自由と清新」の学府づくりをめざし、実現したのである。

なお清輝楼は、明治維新の中心的な担い手の一人である桂小五郎(木戸孝允)と幾松(のちの木戸夫人)の逸話でよく知られる吉田屋のあとを受け継いだものと言われ、その後の変遷を経て1997年まで大和屋旅館として存続した。



清輝楼跡地に建つ立命館草創の地 記念碑



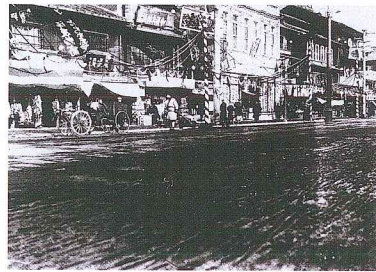
京都法政大学附属清和中学校の第1回卒業生(1907年)



上賀茂にあった第2中学校(1942年)



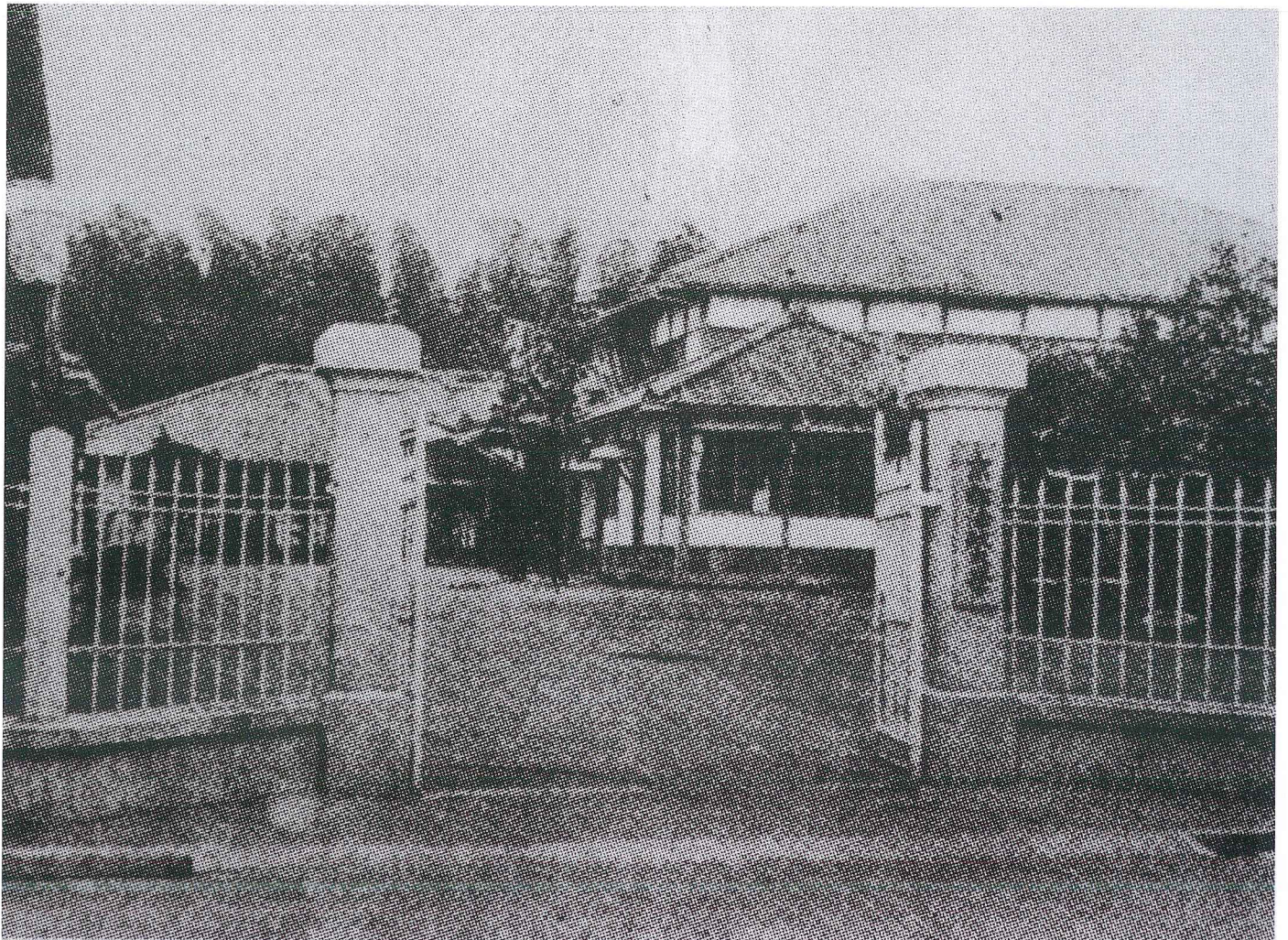
現在の通信教育にあたる
校外生制度(1901年)



創立当時の京都・四条通り



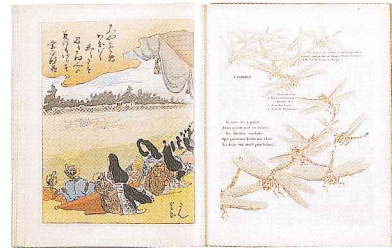
京都法政専門学校雄弁会の面々(1903年)



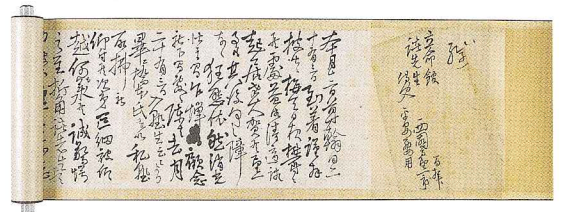
広小路学舎に京都法政学校の校舎が完成(1901年)



近代日本の代表的な政治家であり国際人であった創始者西園寺公望



西園寺が日本の和歌88首を翻訳したフランス語版『蜻蛉集』を出版(1884年)



西園寺の私塾「立命館」が差留命令により閉校
そのくやしい思いをつづり立命館の教師たちに西園寺が
送った書簡(1870年)

立命館ゆかりの地

京都御苑内に碑が立つ 立命館創始の地 西園寺邸 ＜私塾「立命館」＞

気鋭の青年公卿・西園寺公望が、京都御所の邸内に私塾「立命館」を開いたのは、1869年。西園寺は、まだ22歳、戊辰戦争で弾雨をくぐり抜け、意気盛んな年頃だ。立命館の賓師(教師)には、江馬天江、広瀬青邨、富岡鉄斎など、京都の著名な儒学者を招いた。そのことが高い評価を得て、京都はもちろんのこと、各藩から塾生が集まり、邸内に長屋を増築したほどであったという。

ところが、半年もたたないうちに、京都府庁より差留命令が下され、閉鎖に追い込まれてしまった。そのとき西園寺は、長崎でフランス語の勉強中。せめて自分が京都におれば再開の手だても講じられたのに、賓師に手紙を書き送っている。その年の12月には、9年におよぶフランス留学へ旅立つのであった。

西園寺は、公卿の中でも天皇家に近い家柄に生まれた。早くから読書を好み、古今の広い世界を知るにつけ、ただ先例と格式に従い、儀式と祭祀に明け暮れる宮廷の生活に強い疑問と不満をもつよう

になっていたのである。公卿社会の異端児と目されていた。しかし、彼の見識の高さは、誰もが認めざるを得なかった。一流の学者と伍して付き合えるほどの漢学の教養。さらに9年のフランス留学を含む17年もの在外経験によって豊かな国際的視野を養ったことで、その見識は一層高まったのである。

そんな彼が私塾を開いた西園寺邸跡には、「立命館創始の地」の碑が建つ。現在の京都御苑、蛤御門の東南に位置する白雲神社のすぐそばである。



西園寺邸跡に立つ碑

歴代理事長



いけだ しげたろう
池田 繁太郎

1885(明18)~1935(昭10)

理事長

1935年7月~1935年10月
(昭10) (昭10)



きたがわ としお
北川 敏夫

1893(明26)~1988(昭63)

理事長

1949年2月~1960年9月
(昭24) (昭35)

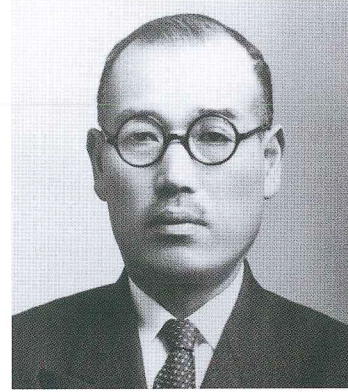


いしはら ひろいちろう
石原 廣一郎

1890(明23)~1970(昭45)

理事長

1944年12月3日~1944年12月19日
(昭19) (昭19)



おだ みきほ
小田 美奇穂

1898(明31)~1971(昭46)

理事長

1960年10月~1971年8月
(昭35) (昭46)



おか ぜんきち
岡 善吉

1887(明20)~1970(昭45)

理事長

1945年11月~1949年2月
(昭20) (昭24)



きむら よしかず
木村 嘉一

1894(明27)~1979(昭54)

理事長代行

1971年8月~1971年9月
(昭46) (昭46)

理事長

1971年9月~1975年9月
(昭46) (昭50)



うえにし きよじ
上西 喜代治

1914(大3)~1981(昭56)

理事長

1975年9月~1981年3月
(昭50) (昭56)



にしむら せいじ
西村 清次

1915(大4)~

理事長

1981年4月~1995年11月
(昭56) (平7)



かわもと はちろう
川本 八郎

1934(昭9)~

理事長

1995年11月~現職
(平7)

歴代総長・学長



なかがわ こじゅうろう
中川小十郎

1866(慶2)~1944(昭19)

学監

1900年6月 ~1913年12月
(明33) (大2)

館長

1913年12月~1931年7月
(大2) (昭6)

総長

1931年7月 ~1944年10月
(昭6) (昭19)



たなかまさたろう
田中昌太郎

1872(明5)~1964(昭39)

学長

1940年5月 ~1941年2月
(昭15) (昭16)



とみ まさあき
富井 政章

1858(安5)~1935(昭10)

校長

1900年6月 ~1904年9月
(明33) (明37)

学長

1904年9月 ~1927年8月
(明37) (昭2)

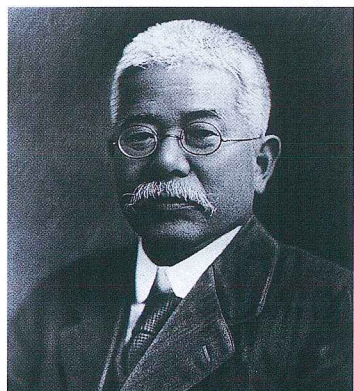


まつい もとおき
松井 元興

1873(明6)~1947(昭22)

学長

1941年3月 ~1945年11月
(昭16) (昭20)



たじま きんじ
田島 錦治

1867(慶3)~1934(昭9)

学監

1922年6月 ~1927年8月
(大11) (昭2)

学長

1927年9月 ~1933年11月
(昭2) (昭8)



すえかわ ひろし
末川 博

1892(明25)~1977(昭52)

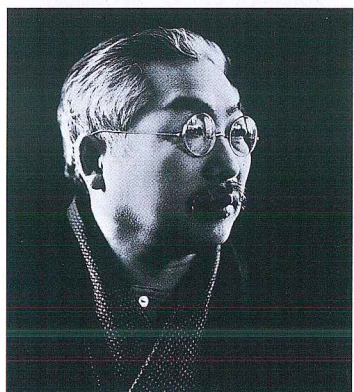
学長

1945年11月~1948年2月
(昭20) (昭23)

総長

1948年2月 ~1949年1月
(昭23) (昭24)

1949年4月 ~1969年4月
(昭24) (昭44)



さ さ き そういち
佐々木 惣一

1878(明11)~1965(昭40)

学長

1934年3月 ~1936年3月
(昭9) (昭11)

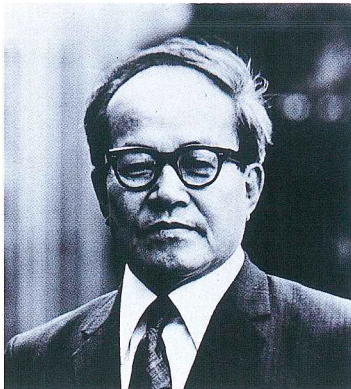


むとう しゅういち
武藤 守一

1910(明43)~1970(昭45)

総長

1970年2月 ~1970年9月
(昭45) (昭45)



ほその たけお
細野 武男

1912(明45)~1994(平6)

総長

1970年11月~1978年6月
(昭45) (昭53)



ながた とよおみ
長田 豊臣

1938(昭13)~

総長

1999年1月 ~ 現職
(平11)



あまの かずお
天野 和夫

1923(大12)~2000(平12)

総長

1978年7月 ~1984年12月
(昭53) (昭59)

立命館アジア太平洋大学



たにおか たけお
谷岡 武雄

1916(大5)~

総長

1985年1月 ~1990年12月
(昭60) (平2)

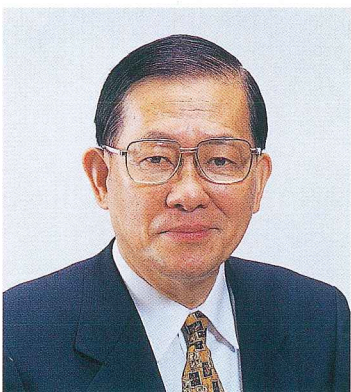


さかもと かずいち
坂本 和一

1939(昭14)~

学長

2000年4月 ~ 現職
(平12)



おおなみ まさてる
大南 正瑛

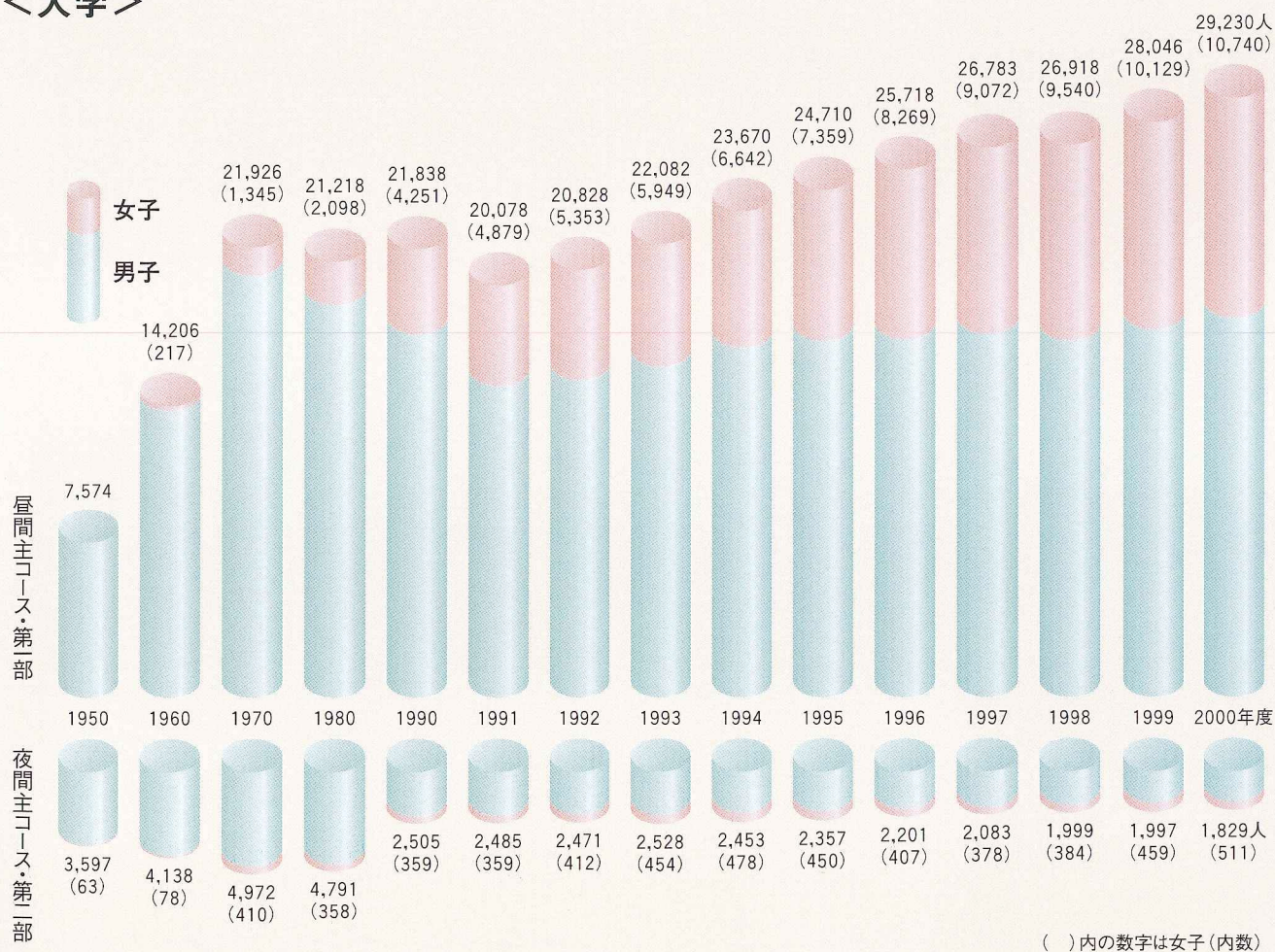
1931(昭6)~

総長

1991年1月 ~1998年12月
(平3) (平10)

● 学生数推移 (1950～2000年度)

<大学>



*2000年度は立命館アジア太平洋大学の学生数を含む。
*データは5月1日現在数。ただし、2000年度は4月1日現在。

<大学院>



<中学校・高等学校>



データ集

● 卒業生数

大学・大学院・専門学校等
中学校・高等学校等

大学・大学院・専門学校等 236,726人
中学校・高等学校等 42,867人

立命館中学校
立命館高等学校
立命館宇治高等学校
立命館慶祥高等学校

1947～1999年度 42,867

宇治高等専修学校

1994～
1997年度 246

京都法政学校
京都法政専門学校
京都法政大学
立命館大学
(旧専門学校令)

1903～
1926年度 1,207

立命館大学(学部)
(旧大学令)

1928～
1951年度 5,923

立命館専門学部
立命館専門学校

1925～
1951年度 15,756

立命館大学予科
私立大学電気工学講習所
立命館高等工科学校
立命館日満高等工科学校

1915～
1948年度 5,112

立命館短期大学

1952～
1954年度 313

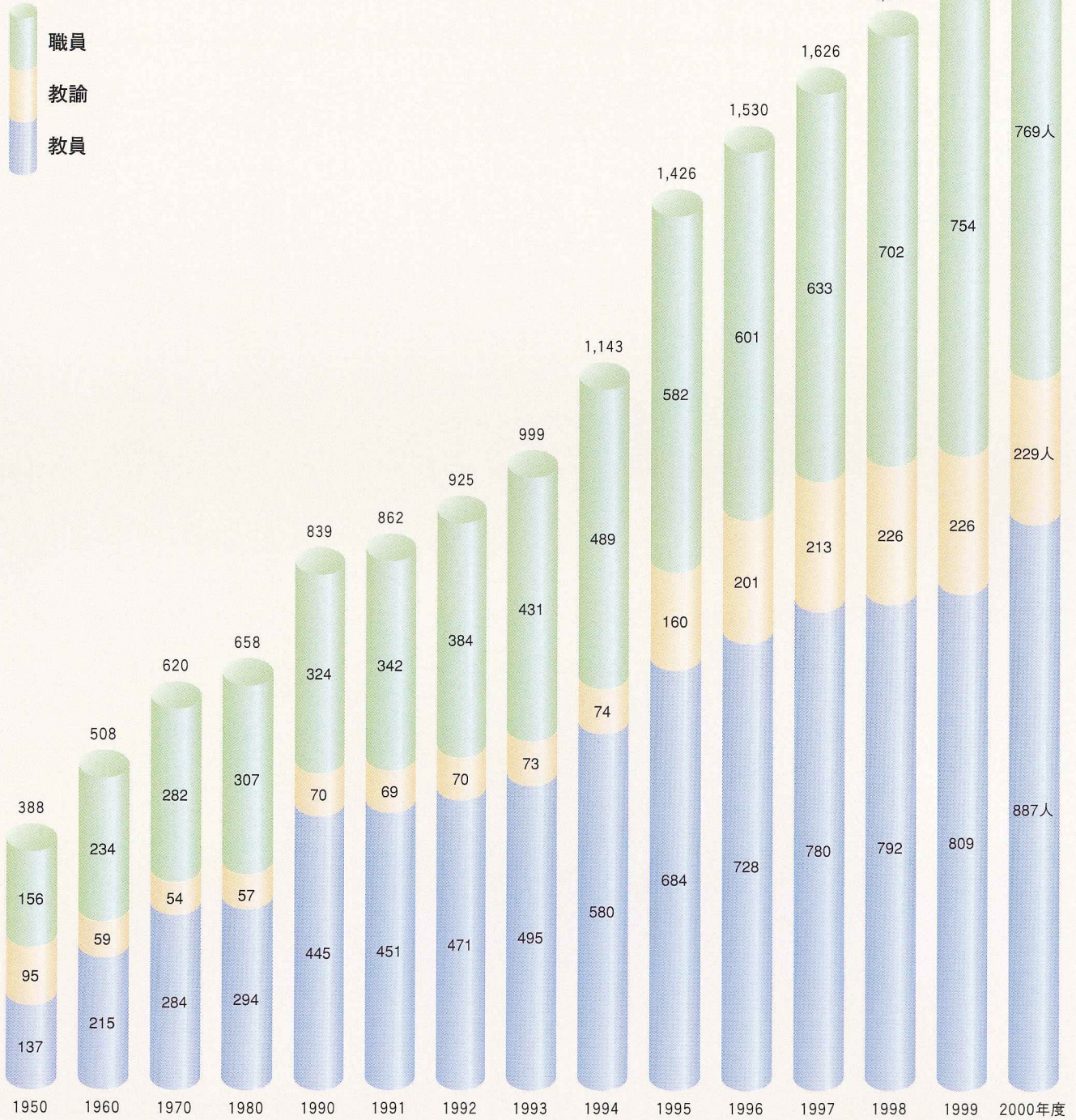
立命館大学

1950～1999年度 202,305

立命館大学大学院

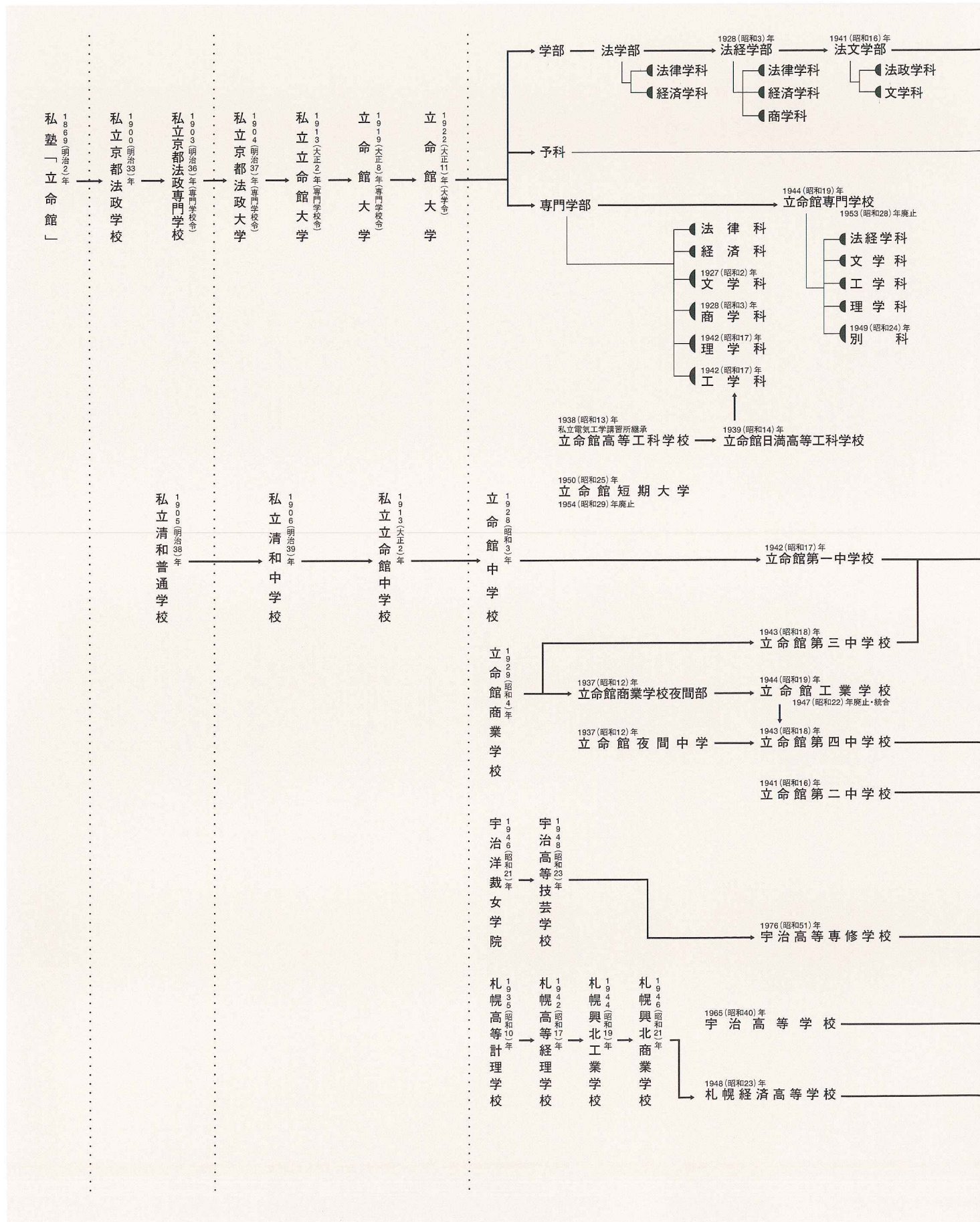
1953～
1999年度 5,864

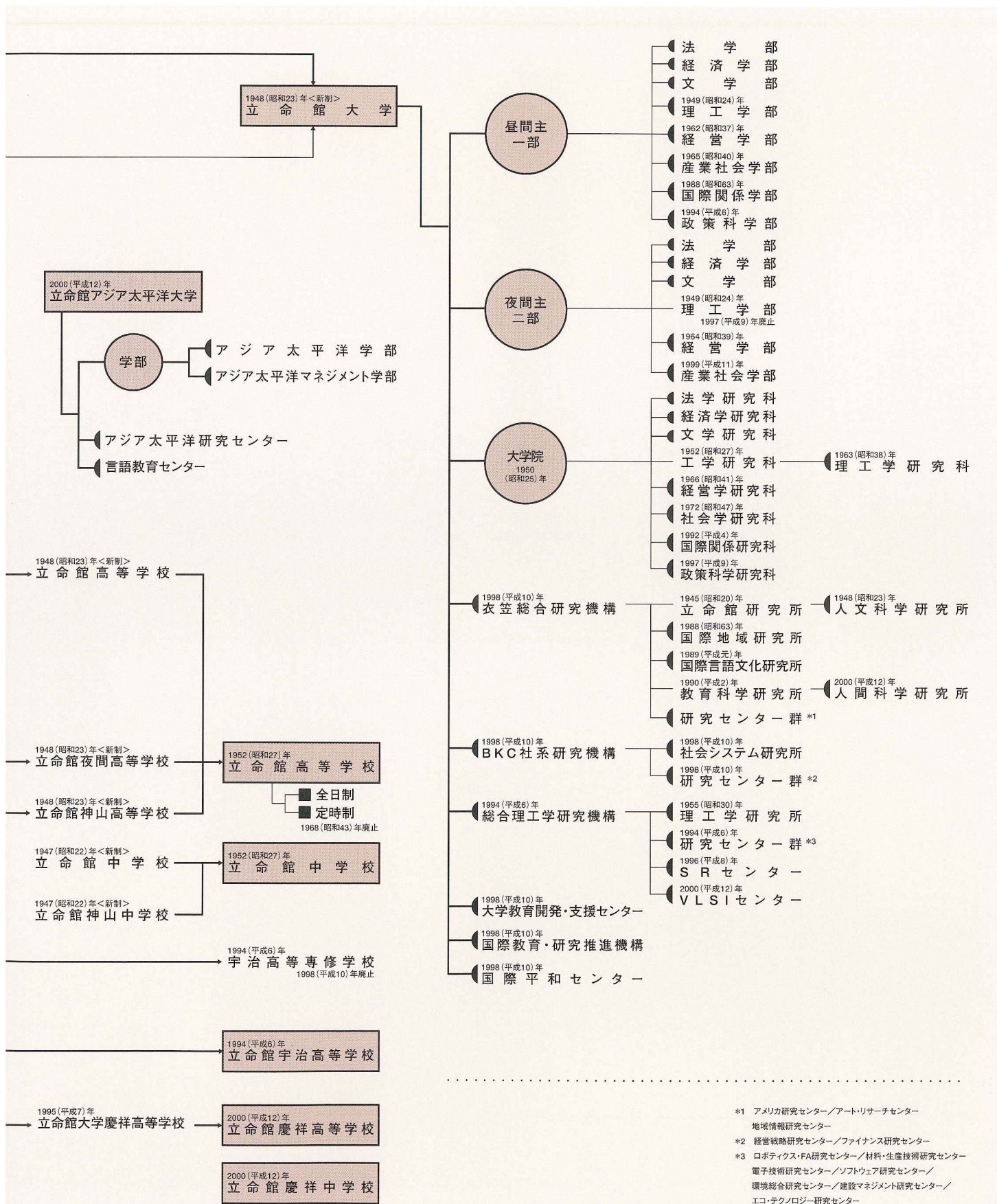
●教職員数の推移



*教員数には客員教授、助手、外国語常勤講師を含む。
 *職員数には嘱託職員、契約職員を含む。
 *1998年度以降、立命館アジア太平洋大学の教職員数を含む。

学園沿革図





1948 (昭和23)年<新制>
立命館大学

2000 (平成12)年
立命館アジア太平洋大学

学部

アジア太平洋学部
アジア太平洋マネジメント学部

アジア太平洋研究センター
言語教育センター

1948 (昭和23)年<新制>
立命館高等学校

1948 (昭和23)年<新制>
立命館夜間高等学校

1948 (昭和23)年<新制>
立命館神山高等学校

1947 (昭和22)年<新制>
立命館中学校

1947 (昭和22)年<新制>
立命館神山中学校

1952 (昭和27)年
立命館高等学校

■ 全日制
■ 定時制
1968 (昭和43)年廃止

1952 (昭和27)年
立命館中学校

1994 (平成6)年
宇治高等専修学校
1998 (平成10)年廃止

1994 (平成6)年
立命館宇治高等学校

1995 (平成7)年
立命館大学慶祥高等学校

2000 (平成12)年
立命館慶祥高等学校

2000 (平成12)年
立命館慶祥中学校

昼間主
一部

夜間主
二部

大学院
1950 (昭和25)年

法学部
経済学部
文学部
理工学部
1949 (昭和24)年
1962 (昭和37)年
経営学部
1965 (昭和40)年
産業社会学部
1988 (昭和63)年
国際関係学部
1994 (平成6)年
政策科学部

法学部
経済学部
文学部

理工学部
1949 (昭和24)年
1997 (平成9)年廃止
経営学部
1964 (昭和39)年
産業社会学部
1999 (平成11)年

法学研究科
経済学研究科
文学研究科
工学研究科
1952 (昭和27)年
1963 (昭和38)年
経営学研究科
1966 (昭和41)年
社会学研究科
1972 (昭和47)年
国際関係研究科
1982 (平成4)年
政策科学研究科
1997 (平成9)年

1998 (平成10)年
衣笠総合研究機構

立命館研究所
1945 (昭和20)年
1948 (昭和23)年
国際地域研究所
1988 (昭和63)年
国際言語文化研究所
1989 (平成元)年
教育科学研究所
1990 (平成2)年
2000 (平成12)年
研究センター群 *1

人文科学研究所
人間科学研究所

1998 (平成10)年
BKC社系研究機構

社会システム研究所
1998 (平成10)年
研究センター群 *2

1994 (平成6)年
総合理工学研究機構

理工学研究所
1955 (昭和30)年
研究センター群 *3
1994 (平成6)年
SRセンター
1996 (平成8)年
VLSIセンター
2000 (平成12)年

1998 (平成10)年
大学教育開発・支援センター

1998 (平成10)年
国際教育・研究推進機構

1998 (平成10)年
国際平和センター

*1 アメリカ研究センター/アート・リサーチセンター
地域情報研究センター
*2 経営戦略研究センター/ファイナンス研究センター
*3 ロボティクス・FA研究センター/材料・生産技術研究センター
電子技術研究センター/ソフトウェア研究センター/
環境総合研究センター/建設マネジメント研究センター/
エコ・テクノロジー研究センター

表紙題字：西園寺公望による揮毫

立命館創始130年・学園創立100周年記念

写真集 **立命館**

編 集 立命館大学広報課
監 修 立命館百年史編纂室

2000年5月20日発行

発 行 学校法人 立命館
京都市北区等持院北町56-1
Tel. 075-465-1111

印 刷 大日本印刷株式会社
大阪市北区堂島浜2丁目2-28
Tel. 06-6347-8880